《専門教育科目》

科目名	音楽Ⅰ			科目ナンバリング	509ST1311A
担当者氏名	立本　千寿子			担　当　形　態	共担
授業方法	演習	単位・必選	1　・　選択	開講年次・開講期	1　年　・　Ⅰ期

《授業の概要》

本授業では、個人レッスンと集団授業を組み合わせながら、幼児教育及び小学校教育の現場で必要となる音楽の基礎的な知識と技能を身に付けます。個人レッスンでは、個々のレベルに合った楽曲に取り組み、ピアノと弾き歌いの技能の修得を目指します。また、集団授業では、読譜に必要な知識を身に付けるとともに、独唱や合唱などの演習を通じて歌唱表現に関する知識と技能を修得します。

《授業外学習》

・音楽実技の向上には日々の練習が欠かせません。課題を確実に練習した上で、授業に臨みましょう。

《テキスト》

初回授業時にレベルに応じてテキストを指示します。 『大学ピアノ教本』教育芸術社、『標準バイエル教則本』全音楽譜出版社　等 ①～③のいずれかを使用。 ①『改訂 ポケットいっぱいのうた 実践 子どものうた 簡単に弾ける144選』教育芸術社 ②『こどものうた200』チャイルド本社 ③初等科音楽教育研究会編『初等科音楽教育法』音楽之友社,2020

《学習状況・理解度の確認》

・課題一覧表に基づいて、各自のレベルに応じた楽曲に取り組みます。毎回のレッスンの中で、アドバイスを伝えるとともに、成果発表後には、全体講評と個別の講評を行います。

《参考図書》

『ブルグミュラー25の練習曲』全音楽譜出版社 『ソナチネアルバム１』全音楽譜出版社

《備考》

・ML教室及びレッスン室使用上の注意事項を厳守すること ・ICT活用双方向型授業です ・ペアやグループワークを取り入れます ・Music Ⅰ

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	2-1 子どもの個別的理解に基づき教育・保育を柔軟に展開する力	読譜に必要な知識を身につけるとともに、保育・教育現場で必要となる基礎的なピアノ技能及び歌唱技能を身につけている。
◎	2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	表現豊かなピアノ演奏や歌唱表現ができるよう、自分なりに工夫することができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	0%
小テスト	25%
レポート	0%
発表・実技	65%
授業内課題	10%
その他（ ）	0%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	オリエンテーション	【個人レッスン】個別のレベルに応じたレッスン　【集団授業】楽典の理解度の確認	ピアノの練習と楽典の復習	120分
2	個人レッスンと楽典の理解①	【個人レッスン】個別のレベルに応じたレッスン　【集団授業】譜表と音名	ピアノの練習と楽典の復習	120分
3	個人レッスンと楽典の理解②	【個人レッスン】個別のレベルに応じたレッスン　【集団授業】音符と休符	ピアノの練習と楽典の復習	120分
4	個人レッスンと楽典の理解③	【個人レッスン】個別のレベルに応じたレッスン　【集団授業】拍子とリズム	ピアノの練習と楽典の復習	120分
5	個人レッスンと楽典の理解④	【個人レッスン】個別のレベルに応じたレッスン　【集団授業】音程・音階	ピアノの練習と楽典の復習	120分
6	個人レッスンと楽典の理解⑤	【個人レッスン】個別のレベルに応じたレッスン　【集団授業】コードネーム	ピアノの練習と楽典の復習	120分
7	個人レッスンと楽典の理解⑥	【個人レッスン】個別のレベルに応じたレッスン　【集団授業】コードネームを用いた伴奏付け	ピアノの練習と楽典の復習	120分
8	個人レッスンと楽典の理解⑦	【個人レッスン】個別のレベルに応じたレッスン　【集団授業】音楽記号、音楽用語	ピアノの練習と楽典の復習	120分
9	個人レッスンと楽典の理解⑧	【個人レッスン】個別のレベルに応じたレッスン　【集団授業】楽典のテスト	ピアノの練習と楽典の復習	120分
10	個人レッスンと歌①	【個人レッスン】個別のレベルに応じたレッスン　【集団授業】声の出し方	ピアノと歌の練習	120分
11	個人レッスンと歌②	【個人レッスン】個別のレベルに応じたレッスン　【集団授業】歌の表現方法について①	ピアノと歌の練習	120分
12	個人レッスンと歌③	【個人レッスン】個別のレベルに応じたレッスン　【集団授業】歌の表現方法について②	ピアノと歌の練習	120分
13	個人レッスンと歌④	【個人レッスン】個別のレベルに応じたレッスン　【集団授業】合唱と指揮法①	ピアノと歌の練習	120分
14	個人レッスンと歌⑤	【個人レッスン】個別のレベルに応じたレッスン　【集団授業】合唱と指揮法②	ピアノと歌の練習	120分
15	成果発表	ピアノ、弾き歌いの成果発表	ピアノと歌の練習	120分

《専門教育科目》

科目名	初等国語科内容論			科目ナンバリング	509ST18100
担当者氏名	大江　実代子			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	1　・　選択	開講年次・開講期	1　年　・　Ⅰ期

《授業の概要》

小学校指導要領「国語科」に示されている目標や内容を踏まえ、具体的な言語活動の映像を視聴したり、体験したりしながら「知識及び技能」と「思考力，判断力，表現力等」について理解し、小学校における国語科の授業を行う教員として必要となる基礎的な知識と技能を習得する。

《授業外学習》

(予習)
・次回授業内容の範囲にあたる学習指導要領の解説を読む。
(復習)
・授業で取り上げたポイントをまとめながら理解を深める。
(日常的)
・新聞、ニュース番組等の言語に関心をもち、疑問に思う言語について調べる習慣をつけるとともに読書の習慣をつける。

《テキスト》

文部科学省「学習指導要領解説　国語編」東洋館出版(2018・2)
必要に応じて資料を配布する。

《学習状況・理解度の確認》

・文章を読む、書く習慣をつけるために、予習・復習を必ず行い意見や疑問点等、授業における発言を確認する。　・復習として出している課題を領域ごとにレポートとして評価する。

《参考図書》

授業時に適宜紹介する。

《備考》

・グループワーク、ディスカッションを取り入れる。　・指導者は実務経験あり。　Instructional Content for Elementary School Japanese

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	学習指導要領について全体の構成や国語科の目標を理解し、授業イメージをもつことができる。
◎	2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	言葉の働きに関する指導について理解することができる。
○	2-3 教育・保育に関わる諸課題について論理的に考える力	具体的な言語活動を通して思考力・判断力・表現力の指導内容や指導方法を理解することができる。
○	3-1 教育・保育に関する知識・技能を更新し続ける力	小学校で扱う古文や漢文や、敬語、共通語方言、漢字の由来など言語に関する知識技能の内容を理解する。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	50%
小テスト	0%
レポート	25%
発表・実技	0%
授業内課題	25%
その他（ ）	
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	オリエンテーション	授業の流れについて・国語科の授業づくりのポイントを知る。　学習指導要領　構成・内容の概要を知る。	予）自身が受けてきた国語の授	60分
2	言語の働き1	語や文の特徴、文の構成等に関わる言葉の働きについての指導内容を理解する。	復）自身の体験を交え言語活動	90分
3	言語の働き2	敬体と常体の文や敬語及び情報を獲得し発信するための表現技法の特徴について理解する。	復）自身の体験を交え敬語につ	90分
4	言語文化	古文や漢文、文語調の文章教材等、伝統的な言語文化の特徴や指導内容及び仮名・漢字の成り立ちや特徴について理解する。	復）関心のある古典文学につい	90分
5	話すこと・聞くこと	話すこと・聞くこと教材の指導内容や方法を理解する。	復）スピーチのポイント/対話指	90分
6	読むこと	説明的文章・文学的文章の教材の特徴や指導内容及び読書指導について理解する。	復）読むことの指導ついてまと	90分
7	書くこと	書くことの教材の指導内容について理解する。	復）模範文例を作成する。	90分
8	書写	硬筆、毛筆など書写の指導内容や方法を理解する。	復）授業内容を整理する。	90分
9	予備日			
10	予備日			
11	予備日			
12	予備日			
13	予備日			
14	予備日			
15	予備日			

《専門教育科目》

科目名	初等社会科内容論			科目ナンバリング	509ST18200
担当者氏名	關　浩和			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	1　・　選択	開講年次・開講期	1　年　・　Ⅰ期

《授業の概要》

本講義では，社会科の教科理念を把握し，社会科の性格や目標，内容，授業構成の仕方，学習計画の立案，評価の方法など初等社会科の授業づくりに関する基本を理解することができる。本講義は，2年次履修の「初等社会科教育法」の前提の科目です。社会科に関する基礎的知識を身に付けることが求められます。

《授業外学習》

・講義の中で興味をもった事柄について，参考文献や資料を基に各自で調べ，自分のめざす社会科授業とは，どんな授業にしたいかを個々に考える。
・普段からニュースや新聞などに目を通して，幅広い視野から講義内容について理解できるようにする。

《テキスト》

關浩和『初等社会科内容論研究』吉本宝文堂，2022年．頒布価格1,000円。 關研究室（1W-207室）で購入してください。 初等社会科教育法の講義でも使用します。

《学習状況・理解度の確認》

・社会科の基礎的知識の定着を図るため，毎回の講義で小テストを実施する。

《参考図書》

・全国社会科教育学会編（2011）『社会科教育実践ハンドブック』明治図書 ・全国社会科教育学会編（2015）『新社会科授業づくりハンドブック小学校編』明治図書

《備考》

Curriculum Theory in Elementary Social Studies ・まじめに参加することが大事です。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	学習指導要領における社会科の目標，内容，カリキュラムの基本原理について理解している。
○	3-1 教育・保育に関する知識・技能を更新し続ける力	各学年における社会科の学習内容を理解するとともに，学習内容が設定されている理由を説明することができる。
○	3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を展開する力	社会科の学習目標や内容とその背景にある学問との関係性を意識しながら，教材研究や授業設計に活用している。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	0%
小テスト	40%
レポート	20%
発表・実技	20%
授業内課題	20%
その他（ ）	0%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	社会科の基本的性格	社会科の目標，内容について学習指導要領における学力観の変遷の視点から理解する。	単元設定 内容整理	60分
2	第３学年社会科の学習内容	第３学年社会科学習に関わる目標・内容・指導法について理解する。	教材研究 内容整理	60分
3	第４学年社会科の学習内容	第４学年社会科学習に関わる目標・内容・指導法について理解する。	教材研究 内容整理	60分
4	第５学年社会科の学習内容①	第５学年社会科学習に関わる目標・内容・指導法について理解する。	教材研究 内容整理	60分
5	第５学年社会科の学習内容②	第５学年社会科学習に関わる目標・内容・指導法について理解する。	教材研究 内容整理	60分
6	第６学年社会科の学習内容①	第６学年社会科学習に関わる目標・内容・指導法について理解する。	教材研究 内容整理	60分
7	第６学年社会科の学習内容②	第６学年社会科学習に関わる目標・内容・指導法について理解する。	教材研究 内容整理	60分
8	社会科の授業設計の 理論と方法	社会科の教科理念を把握し，社会科の授業設計に関する基本を理解することができる。	講義総括	60分
9	予備日			
10	予備日			
11	予備日			
12	予備日			
13	予備日			
14	予備日			
15	予備日			

《専門教育科目》

科目名	初等算数科内容論			科目ナンバリング	509ST18300
担当者氏名	赤井　利行			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	1　・　選択	開講年次・開講期	1　年　・　Ⅱ期

《授業の概要》
受講者には、小学校における算数科の授業を担当するために必要な(数と計算、図形、測定、変化と関係、データの活用)の実践的な数理運用力を、授業場面を意識しながら身に付ける。また、幼稚園、小学校、中学校の関連性を踏まえながら、小学校における算数科を担当するための必要な背景となる知識を身に付けてほしい。

《授業外学習》
・教科書の指定個所を読んでおくこと。・授業に沿った問題プリントを配布するので、次回までに行っておくこと。・学習ノートを作成して、整理して、理解すること。

《テキスト》
・文部科学省「学習指導要領解説算数科編」　・赤井利行編「わかる算数科指導法　改訂版」東洋館出版社

《学習状況・理解度の確認》
小テスト・試験等に対して別の要旨にコメントを記入して配布する。・解からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。・授業の到達目標に対しては、全体講評を行い、次年度目標に反映させる。

《参考図書》
指定なし

《備考》
・小学校算数科教科書の背景にある考え方を理解することを求める。
・プレゼン、グループ討議を行う。　・授業担当者は広島大学附属小学校教員の実務経験者である。　Instructional Content for Elementary School Arithmetic

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	学習指導要領の目指す目標及び考え方を理解する。
○	3-1 教育・保育に関する知識・技能を更新し続ける力	小学校で学習する数学的内容の位置づけを確認し、教材間の関連性を理解する。
○	3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を展開する力	具体的な生活や学習の場面を基にし、問題発見をする楽しさを理解し、問題解決をする過程を獲得する。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	50%
小テスト	30%
レポート	0%
発表・実技	10%
授業内課題	10%
その他（ ）	0%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	オリエンテーション	算数の価値を理解し、算数教育の歴史を学ぶ	テキストを読む	60分
2	(1)算数科のねらい	指導要領に基づき、今日求められる算数の位置づけを理解し目指すべき方向を確認する。	テキストを読む	60分
3	(2)数学的な見方・考え方	数学的な見方・考え方を確認し、帰納的・演繹的な考え方を事例を基に理解する。	配布プリントを読み、理解	60分
4	数と計算に関する基本的な数理運用力	整数・小数・分数の意味および整数の性質や、整数・少数・分数の四則計算の意味とその計算方法について考え、理解する。	テキストを読む	60分
5	図形に関する基本的な数理運用力	数学的活動を基に図形を構成する活動を理解する。及び図形の性質や面積の求め方を発展的に考える方法を理解する。、	復習ノート	60分
6	変化と対応・データー利活用に関する基本的な数理運用力	データを整理する観点に着目して、目的に応じてデータの収集や適切な手法の選択など統計的な問題解決の方法を理解する。	配布プリントを読み、理解	60分
7	現実および数学の世界の数学的探求	子供の身の回り起こる事象を数学の観点から問題化して捉え、問題を解決していく方法を分析・考察する。	復習ノート	60分
8	問題発見・解決・発展の過程としての数学および総括	数学の学習を問題発見から、どのように解決していくか解決の過程を学び、その学びをいかに発展させていくか一連の過程を理解する	配布プリントを読み、理解	60分
9				45分
10				45分
11				45分
12				45分
13				45分
14				45分
15				45分

《専門教育科目》

科目名	初等理科内容論			科目ナンバリング	509ST18400
担当者氏名	安部　洋一郎			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	1　・　選択	開講年次・開講期	1　年　・　Ⅰ期

《授業の概要》

教科の指導にあたっては、教師自身が指導内容を深く理解しておくことが求められる。本授業では、小学校理科教科書を参考に実際の実験や観察を交えて体験的に学ぶことで、教員として理科授業を行うために十分な、小学校理科における指導内容の習得を目指す。小学校理科における指導内容としては、科学的知識や実験器具の使い方等の技能だけでなく、思考力としての問題解決の力を取り扱うものとする。

《授業外学習》

指定した文献の読了などの課題を課すため、次回の授業までに履行すること。
植物種子の発芽実験などの授業外での実験・観察を求めることがあるので、期限内に実施し、その結果を報告すること。

《テキスト》

小学校理科教科書（2019）『わくわく理科３～６年』新興出版社啓林館

《学習状況・理解度の確認》

観察・実験の技能を習得しているか、他者とともに仮説を形成しそれを検証する問題解決の力を身につけているかを実技・授業内課題を通して確認する。

《参考図書》

文部科学省（2018）『小学校学習指導要領解説理科編』東洋館出版社　平田豊誠・小川博士(編著)（2022）『小学校理科を教えるために知っておきたいこと～初等理科内容学と指導法～』東洋館出版社

《備考》

Teaching Contents of Science for the Elementary School ・授業ではグループワーク・実験実習ICT活用双方向型授業を行う。 ・ICT活用双方向型授業を行う。 ・科目担当者は実務経験者（西宮市立公立小学校教員、西宮市教育委員会）である。 ・授業中の発言、授業態度や課題の提出、授業への出席については成績に反映する。 ・教員連絡先、課題提出先　abe@hyogo-dai.ac.jp

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	小学校理科授業を行うに足る科学的理解を有し、観察・実験を安全、正確に行うことができる。
○	3-1 教育・保育に関する知識・技能を更新し続ける力	問題解決に向けて、他者と協働し、自らの学びを振り返りながら学習を進めることができる。
○	3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を展開する力	自然事象に対する問題解決を授業に取り込み、児童の主体的な学習を引き出すことができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	0%
小テスト	50%
レポート	0%
発表・実技	25%
授業内課題	25%
その他（ ）	0%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	小学校理科で扱う内容	オリエンテーション（講義の進め方）　小学校理科の指導内容の概観	講義内容の振り返り	90分
2	小学校第３学年の観察実験	「光と音の性質」等の物理教材の観察実験のポイント	教科書の該当ページを読んで	90分
3	小学校第３学年の観察実験	「磁石の性質」等の物理教材の観察実験のポイント	教科書の該当ページを読んで	90分
4	小学校第４学年の観察実験	「金属、水、空気と温度」等の化学教材の観察実験のポイント	教科書の該当ページを読んで	90分
5	小学校第５学年の観察実験	「植物の発芽、成長、結実」等の生物教材の観察実験のポイント	教科書の該当ページを読んで	90分
6	小学校第６学年の観察実験	「水溶液の性質」等の化学教材の観察実験のポイント	教科書の該当ページを読んで	90分
7	小学校第６学年の観察実験	「土地のつくりと変化」等の地学教材の観察実験のポイント	教科書の該当ページを読んで	90分
8	まとめ	小学校理科の指導内容の概観	講義内容の振り返り	90分
9	予備日			
10	予備日			
11	予備日			
12	予備日			
13	予備日			
14	予備日			
15	予備日			

《専門教育科目》

科目名	初等生活科内容論			科目ナンバリング	509ST18500
担当者氏名	關　浩和			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	1　・　選択	開講年次・開講期	1　年　・　Ⅱ期

《授業の概要》

本講義では，生活科の教科理念を把握し，生活科の性格や目標，内容，授業構成の仕方，学習計画の立案，評価の方法など生活科の授業づくりに関する基本を理解することができる。本講義は，2年次履修の「初等生活科教育法」の前提の科目です。生活科に関する基礎的素養を身に付けることが求められます。

《授業外学習》

・講義の中で興味をもった事柄について，参考文献や資料を基に各自で調べ，自分のめざす生活科授業とは，どんな授業にしたいかを個々に考える。

《テキスト》

・關浩和（2023）『初等生活科内容論研究』吉本宝文堂　頒布価格1,000円。必ずテキストを購入してください。 このテキストは，初等生活科教育法でも使用します。

《学習状況・理解度の確認》

・毎回の講義で既習事項の確認テストを実施することで，学習内容の定着を図る。

《参考図書》

・文部科学省（2017）『小学校学習指導要領解説生活編』文部科学省HP

《備考》

Curriculum Theory in Elementary Life Environment Studies ・まじめに参加することが大事です。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	学習指導要領における生活科の目標，内容，カリキュラムの基本原理について理解している。
○	3-1 教育・保育に関する知識・技能を更新し続ける力	生活科の学習内容を理解するとともに，学習内容が設定されている理由を説明することができる。
○	3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を展開する力	生活科の学習目標や内容とその背景にある学問との関係を理解し，教材研究や授業設計に活用している。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	0%
小テスト	40%
レポート	20%
発表・実技	20%
授業内課題	20%
その他（ ）	0%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	生活科誕生の経緯	学習指導要領の経験主義から系統主義に至る経緯を理解し，どのような経緯で平成元年に生活科誕生したのかを理解する。	テキストを読む 内容整理	60分
2	生活科カリキュラムの 編成原理	生活科カリキュラムは，４つの出会い（社会，自然，人間，自己）と３つの間（時間・空間・人間）で構成されていることを理解する。	テキストを読む 内容整理	60分
3	生活科の意義①	自立し生活を豊かにすることや４つの出会いを大切にする生活科の意義を理解する。	テキストを読む 内容整理	60分
4	生活科の意義②	スクリプトを引き出すことやネットワークのハブ的役割を果たす生活科の意義を理解する。	テキストを読む 内容整理	60分
5	生活科の理論的背景①	生活科において方法的能力や自己意識，社会性を育てるための生活科の理論的背景を理解する。	テキストを読む 内容整理	60分
6	生活科の理論的背景②	生活科において空間的認識能力や自己表現力を育てるための生活科の理論的背景を理解する。	テキストを読む 内容整理	60分
7	比較・分類思考による 生活科授業デザイン	比較・分類思考を中核に据え，子どもの知的好奇心を喚起して，生活科授業設計を行うためのノウハウを学ぶ。	テキストを読む 内容整理	60分
8	生活科における評価	生活科授業においてPDCAサイクルを実践するための評価のあり方を学ぶとともに，教師の役割について理解する。	講義総括 ノート整理	60分
9	予備日			
10	予備日			
11	予備日			
12	予備日			
13	予備日			
14	予備日			
15	予備日			

《専門教育科目》

科目名	初等音楽科内容論			科目ナンバリング	509ST1861A
担当者氏名	井上　朋子			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	1　・　選択	開講年次・開講期	1　年　・　Ⅰ期

《授業の概要》
本授業は、小学校音楽科の授業内容を理解するとともに、授業実践に必要な知識や技能を修得することを目的とします。音楽科授業において、児童に音楽活動の楽しさを伝えるには、教師自身の多様で豊かな音楽体験が大切です。この授業では、教科書教材を用い、実際の授業場面を意識しながら体験的に学びます。その中で、表現活動（歌唱、器楽、音楽づくり）、鑑賞活動を指導する際に必要となる音楽的な知識と技能を身につけます。

《授業外学習》
歌唱、器楽の上達には、継続的な練習が必要不可欠です。課題曲については、各自よく練習した上で授業に臨みましょう。
日頃から、身の回りの多様な音や音楽に耳を傾け、味わって聴くようにしましょう。

《テキスト》
初等科音楽教育研究会編『初等科音楽教育法』音楽之友社,2020
『音楽のおくりもの１～６』教育出版

《学習状況・理解度の確認》
実技に関しては、実技発表において、修得状況を確認します。 知識に関しては、授業内の課題や試験等によって、理解度を確認します。

《参考図書》
文部科学省　『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　音楽編』　東洋館出版社

《備考》
・授業担当者は、小学校音楽専科の実務経験者 ・ICT活用双方向型授業です ・ペアやグループワークを取り入れます ・Instructional Content for Elementary School (Music)

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	小学校音楽科の授業内容を理解している
○	3-1 教育・保育に関する知識・技能を更新し続ける力	生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わるための姿勢や態度を身につけている
○	3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を展開する力	小学校音楽科の授業実践に必要な基礎的知識や技能を身につけている

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	40%
小テスト	0%
レポート	0%
発表・実技	40%
授業内課題	20%
その他（ ）	0%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	オリエンテーション	小学校音楽科の目標と内容	音楽経験についての振り返り	60分
2	表現領域：歌唱①	低中学年の教科書教材を使って	課題曲（歌）の練習	60分
3	表現領域：歌唱②	高学年の教科書教材を使って	課題曲（歌）の練習	60分
4	表現領域：器楽①	低中学年の教科書教材を使って（鍵盤ハーモニカ・リコーダー）	リコーダーの練習	60分
5	表現領域：器楽②	高学年の教科書教材を使って（器楽合奏）	リコーダーの練習	60分
6	表現領域：音楽づくり①	音あそび・即興的な表現	即興的な音楽づくり	60分
7	表現領域：音楽づくり②	音楽の仕組み、音の重ね方や組み合わせを活かして	音楽創作	60分
8	鑑賞領域及び全体のまとめ	低中高学年の教科書教材を使って 全体のまとめ	総復習	90分
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

《専門教育科目》

科目名	初等図画工作科内容論			科目ナンバリング	509ST1871A
担当者氏名	半田　結			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	1　・　選択	開講年次・開講期	1　年　・　Ⅱ期

《授業の概要》
本授業では、小学校学習指導要領の「図画工作」の目標を理解した上で、図画工作に関する基礎的な力を身につけることを目指します。図画工作の授業を構想・計画・実践するために必要な造形的な力を育成するために、平面や立体の表現制作を体験し、鑑賞活動の方法と展開などについて学びます。

《授業外学習》
〇小・中学校で使った「図画工作」や「美術」の教科書を改めて見てみましょう。好きなもの、気になるものはありますか。授業のヒントがたくさん詰まっています。
〇日常生活のなかで、自分が美しい、好ましい、素敵だと感じる物や事は何か、意識してみましょう。
〇日頃からいろいろなものにふれて、自分の感覚を磨いておきましょう。

《テキスト》
新野貴則・福岡知子編『明日の小学校教諭を目指して　子どもの資質・能力を育む　図画工作科教育法』萌文書林、2023年

《学習状況・理解度の確認》
・提出課題はまとめてファイルに入れて提出を求めます。また、毎回振り返り課題があります。　・課題に対してはコメントをつけて返却し、必要な場合は再提出を求めることがあります。　・定期試験は実施しません。

《参考図書》
小学校学習指導要領（2017年文部科学省告示）

《備考》
・授業では、プレゼンテーションを行います。授業への積極的な参加を希望します。　・体験的な学びを多く取り入れますので、服装や準備物等の用意が必要な場合があります。Instructional Content for Elementary School (Arts and Crafts)

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	図画工作で必要とされる基礎的な技能や能力を身につける
○	3-1 教育・保育に関する知識・技能を更新し続ける力	様々な事例を参考にして新たな教材を開発できる
○	3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を展開する力	子どもの発達を踏まえた指導内容を構想することができる

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	0%
小テスト	
レポート	0%
発表・実技	30%
授業内課題	40%
その他（ ）	30%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	オリエンテーション	・授業の進め方や評価、テキストについて　・小学校図画工作科の「目標」「内容」	テキストpp. 10-13、22-25を読む	45分
2	絵に表す①	・幼児期から児童期の描画の特徴を学ぶ　・基本的な画材や道具の特徴を体験しながら学ぶ①鉛筆、クレヨン・パス、マーカー	テキストpp. 38-43を読む	45分
3	絵に表す②	・基本的な画材や道具の特徴を体験しながら学ぶ②紙、水彩絵具	テキストpp. 38-49を読む	45分
4	立体に表す	・幼児期から児童期の立体的な試みや表現について体験しながら学ぶ	テキストpp. 44-49を読む	45分
5	工作に表す	・幼児期から児童期の工作に表す活動の特徴を体験しながら学ぶ	テキストpp. 50-55を読む	45分
6	造形遊び	・造形遊びの歴史と位置づけについて学ぶ　・造形遊びの特徴を体験しながら学ぶ	テキストpp. 32-37を読む	45分
7	鑑賞	・鑑賞の意味や意義について学ぶ　・対話型鑑賞法を体験しながら学ぶ	テキストpp. 56-61を読む	45分
8	まとめ	・これまで学んだことを振り返り、今後の課題を整理する		45分
9				45分
10				45分
11				45分
12				45分
13				45分
14				45分
15				45分

《専門教育科目》

科目名	初等家庭科内容論			科目ナンバリング	509ST18800
担当者氏名	相川　美和子			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	1　・　選択	開講年次・開講期	1　年　・　Ⅰ期

《授業の概要》
家庭科教育は教科横断的に取り扱われる要素が多く、他教科とのつながりを確認しながら、その目的や内容について講義を行うと同時に、指導に必要な基礎的知識と技術について理解を図る。また、家庭科の内容は、教科から離れて、小学校生活全般に関わる指導の要領（給食・清掃・学級活動・特別活動・保護者会等）と重複しており、小学校教員としての資質向上にもつながることを確認する。

《授業外学習》
・学習指導要領解説（家庭編）と教科書の、関連個所を読んでおくこと。
・自分の生活を見渡し、家庭科授業に関連する内容を探求する姿勢を身に着けるようにすること。・次時の授業に向けた範囲プリントを配布するので、授業内容を理解し、工夫してノートを整理すること。

《テキスト》
・文部科学省　小学校学習指導要領解説（家庭編）　・教科書
小学校わたしたちの家庭科（５・６）開隆堂

《学習状況・理解度の確認》
・工夫されたノートと授業内課題に取り組み、随時解説を添える。

《参考図書》
随時関連資料を配布

《備考》
・幅広い分野を短時間で履修することになるため、各自主体的に学習を進めることを期待する。　・Ａ４版ルーズリーフノートを多い目に持参すること。教科専用の2つ穴ファイルを準備すること。　・ペアーワーク、実習を入れることがある。　・科目担当者は、家庭科教諭として、中学校・高等学校での勤務歴のある実務経験者。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	小学校学習指導要領解説（家庭編）の目標と構成・内容を理解している。
○	3-1 教育・保育に関する知識・技能を更新し続ける力	教科書の項目ごとの内容の要点を理解し、基礎的な知識と技術を身に着け更に発展的な学びをしようとしている。
○	3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を展開する力	内容間の関連と他教科との関連を理解し、新しい課題設定と解決に向けて教材研究することができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	
小テスト	
レポート	
発表・実技	30%
授業内課題	40%
その他（ ）	30%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	小学校家庭科教育の構成と内容	小学校家庭科の内容と中・高で扱われる内容の系統性について理解し、今後の学習方法について確認する。	学習指導要領（家庭科）目標	45分
2	A　家族・家庭生活	自分の成長と家族、家庭生活の内容を中心に、少子高齢社会に対応した諸問題と、異年齢交流の要点を理解する。	教科書の関連部分通読と予習	45分
3	B 衣食住の生活（食生活）	日常の食事の大切さについて確認し、栄養・調理に関する基礎的な知識と技術について理解する。	教科書の関連部分通読と予習	45分
4	B 衣食住の生活（衣生活）	衣服の働きについて理解すると同時に、基礎的な技能を確認するため、授業内課題に取り組む。	予習ノート作成指示された課題	60分
5	B 衣食住の生活（住生活）	快適に安全に住まうの内容を中心に、災害教育と関連付けた内容の取扱いについて確認する。	教科書の関連部分通読と予習	45分
6	C 消費生活・環境（消費生活と環境）	身近な物の選び方、キャッシュレス時代に対応したお金の使い方について、新しい教材開発の重要性を理解する。	教科書の関連部分通読と予習	45分
7	C 消費生活・環境（環境）	環境に配慮した生活とは、上記A～Cすべてに関連しており、多角的な視点で扱わなければならない内容であることを理解し、授業内課題に取り組む。	授業の復讐とノート整理	90分
8	他教科との関連と総括	家庭科の内容が、教科横断的に取り扱われることの重要性を理解し、授業の総括をする。	課題の整理	45分
9	予備日			
10	予備日			
11	予備日			
12	予備日			
13	予備日			
14	予備日			
15	予備日			

《専門教育科目》

科目名	初等体育科内容論			科目ナンバリング	509ST18900
担当者氏名	筒井　茂喜			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	1　・　選択	開講年次・開講期	1　年　・　Ⅱ期

《授業の概要》

小学校における体育科の目的・内容に関わる専門的知識を小学校学習指導要領解説体育編及びスポーツ諸科学（運動生理学、スポーツ心理学、スポーツバイオメカニクスなど）の知見をもとにした講義・演習を通して理解します。また、演習では、小学校体育授業で散見される問題を取り上げ、議論することを通して、その問題の根本的原因について考究します。

《授業外学習》

事前学習（予習）
・次回の授業範囲を小学校学習指導要領解説体育編及び文献にて予習し、概要をつかんでおく。
事後学習（復習）
・授業後は関連した文献及びレポート作成を通して、理解の定着を図る。

《テキスト》

『小学校学習指導要領解説体育編』、文部科学省、東山書房

《学習状況・理解度の確認》

講義後に学びの振り返り及びレポート作成を通して知識の定着と深化を図る。

《参考図書》

『内容学と架橋する保健体育科教育論』、後藤幸弘・上原禎弘編、晃洋書房，　『3ステップで変わる　実技教科指導ガイドブック』小竹光夫編、明治図書

《備考》

・グループディスカッションを行う。　・常に「問い」を持ち、講義に臨むことを期待する。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	小学校体育科の目標及び教育内容を理解する。
◎	2-3 教育・保育に関わる諸課題について論理的に考える力	スポーツ諸科学の知見をもとに小学校体育科の存在意義を理解する。
○	2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	小学校学習指導要領解説体育編をもとに体育科の領域編成、各領域の目標及び内容を理解する。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	70%
小テスト	0%
レポート	20%
発表・実技	10%
授業内課題	0%
その他（ ）	0%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	オリエンテーション	本講義の概要と目標を理解し、これからの学習内容と方法を確認する。また、体育科の存在意義についての「問い」を持つ。	体育編、pp. 1-5までを通読	45分
2	(1)小学校体育科の目標と内容及び存在意義について (2)運動経験と非認知能力の 関連について	・"小学校学習指導要領解説保健体育編"を元に,小学校体育科の目標と内容について理解する。又,ｽﾎﾟｰﾂ心理学の知見を元に小学校体育科の存在意義について考究する。運動経験と非認知能力の関連から、運動有能感と自己概念の形成、非認知能力	体育編、pp. 6-16までを通読	45分
3	（1）運動有能感と自己概念の関連について　（2）運動有能感について①	・運動有能感と自己概念の形成及び非認知能力との関連についての理解を深める。 ・運動有能感及びその下位因子（身体の有能さの認知、統制感、受容感）についての理解を深める。	配布資料を通読	45分
4	（1）運動有能感について② （2）小学校体育科の領域編成について	・運動有能感の発達傾向から、その背景に存在する教師の指導について考究する。 ・「小学校学習指導要領解説体育編」をもとに、小学校体育科の領域編成について理解する。	配布資料を通読	45分
5	各運動領域の目標と教育内容の理解	「小学校学習指導要領解説体育編」をもとに、各運動領域の目標と内容の概要を理解する。	配布資料を通読	45分
6	体育授業づくりにおける教育内容明確化の理解	体育授業づくりにおける教育内容明確化の重要性を走運動を例に考究する。	配布資料を通読	45分
7	体育授業づくりにおける教育内容明確化の理解	体育授業づくりにおける教育内容明確化の重要性を走運動を例に考究する。	配布資料を通読	45分
8	自己の課題の明確化	これまでの講義をふり返り、運動有能感を高める体育授業づくりにおける自己の課題を明確にする。	配布資料を通読	45分
9				45分
10				45分
11				45分
12				45分
13				45分
14				45分
15				45分

《専門教育科目》

科目名	初等英語科内容論			科目ナンバリング	509ST19000
担当者氏名	大牛　英則			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	1　・　選択	開講年次・開講期	1　年　・　Ⅱ期

《授業の概要》
小学校における外国語活動や外国語科（英語）の授業の実践に必要となる英語の基礎知識を学ぶだけでなく、授業で実際に用いる英語を使いながら身につけていく。授業では、それまでに自分が受けた英語の授業との比較をしながら、実際の授業を想定した発表も行っていく。

《授業外学習》
各回の資料に目を通し、必要に応じて語彙、表現を練習しておくこと。

《テキスト》
『小学校英語　はじめる教科書　改訂版』　mpi松香フォニックス　2022年

《学習状況・理解度の確認》
数回毎に小テスト・パフォーマンステストを実施する。

《参考図書》
必要に応じて紹介する。

《備考》

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
		授業実践に必要な「英語を聞きとる力」「英語を話す力」「英語を読む力」「英語を書く力」を身につけている。
		英語授業実践に必要な「英語に関する基本的な知識」について理解している。
		第二言語習得に関する基本的な事柄について理解している。
		授業実践に必要な児童文学や異文化理解に関する事柄を理解している。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	50%
小テスト	30%
レポート	0%
発表・実技	20%
授業内課題	0%
その他（ ）	0%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	オリエンテーション	授業計画、テキスト、評価等について確認する。 小学校における外国語活動・外国語科の役割とフォニックスの基礎的な知識について学ぶ。	小学校学習指導要領の通読 ﾃｷｽﾄ	60分
2	聞くこと、話すことの指導フォニックス①	授業で使うｸﾗｽﾙｰﾑｲﾝｸﾞﾘｯｼｭを学び、実際の授業でどのようなﾀｲﾐﾝｸﾞや場面で用いるべきかについて考えたり、どのような内容を児童に対して話すべきかについて、体験を通して学ぶ。児童が英語を聞き取る際の困難さの原因となる音の連結、同化	ﾃｷｽﾄp. 78-85 配付資料	60分
3	外国語学習と第二言語習得理論フォニックス②	第２言語学習環境と外国語学習環境の違いについて気づき、Krashenが唱えた「モニターモデル」をはじめとする第二言語習得理論と小学校外国語活動や外国語科で行う授業との関係について学ぶ。	ﾃｷｽﾄp. 94-9 配付資料	60分
4	英語に関する基本的な知識①フォニックス③	英語の音声や文字、単語、文の書き方について、日本語と関連させながらそれらの基礎知識となるものを学び、文字指導の基本的な考え方や注意点についても考える	ﾃｷｽﾄp. 112-5	60分
5	読むこと、書くことの指導フォニックス④	小学校外国語活動・外国語科においての「読むこと」と「書くこと」の考え方を学び、実際に使われている教科書を題材にして、授業を通して児童にどのような力をつけるか、そのためにはどのようなアプローチが必要不可欠であるかを考える。	ﾃｷｽﾄp. 120-3、p. 128-31	60分
6	英語に関する基本的な知識②フォニックス⑤	英語の語彙や語彙指導とそれに関わる課題から、日英語順を比較しながら英語の文構造や文法指導の仕方など、実際の指導方法について学ぶ。	ﾃｷｽﾄp. 86-93	60分
7	ライム・歌・絵本・児童文学フォニックス⑥	小学校の授業で頻繁に用いられるチャンツや歌、絵本などの文学を紹介し、実際の授業でどのように取り入れることができるか、指導の際に気をつけることについて考える。	ﾃｷｽﾄp. 100-7	60分
8	外国語における国際理解教育フォニックス⑦	外国語活動や外国語科の授業において重要となる国際理解（異文化理解）の視点について考え、授業においてどのように取り入れることができるか実例を上げながら考える。	ﾃｷｽﾄp. 108-11、配付資料	60分
9	予備日			
10	予備日			
11	予備日			
12	予備日			
13	予備日			
14	予備日			
15	予備日			

《専門教育科目》

科目名	初等国語科教育法			科目ナンバリング	509ST22100
担当者氏名	大江　実代子			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2　・　選択	開講年次・開講期	2　年　・　Ⅱ期

《授業の概要》

国語科の授業を行う上で必要な単元構成、教材研究、授業構想についての具体的に指導方法に触れる。まず、学習指導案、発問構成、板書計画等,基本的な要件を理解する。次に、各自教材を選択し、短時間の模擬授業を行う。相互評価の中で、実践的に指導ポイントを理解していく。また、タブレット端末等ICTの効果的な活用や対話的な学習を成立させるポイント等、演習通して実践力を養う。

《授業外学習》

シラバスをもとに、以下の観点で予習復習を行う。
①学習指導要領解説にある言語活動例の確認
②国語科の学習指導案を入手し実際の指導案を読み知識を得ると共に疑問点を授業の中で解決できるようにする。
③教科書教材を読む。
④学習指導案の作成・模擬授業を行う準備をする。

《テキスト》

学習指導要領解説　国語編（平成２９年）　文部科学省 授業毎に必要なハンドアウトを配布する。

《学習状況・理解度の確認》

・レポートにコメントを付して返却する。　・分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《参考図書》

『国語教師の力量を高める-発問・評価・文章分析の基礎-』　井上尚美著　明治図書(2005) を推奨 小学校国語教科書（１～６年）　光村図書・東京書籍

《備考》

・一人ずつ学習指導案作成・模擬授業を体験し､授業スキルの獲得を目指す　・指導者は実務経験有（明石市立小学校教員・三木市立小学校校長）　Teaching Methods for Elementary School Japanese Language

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を展開する力	国語科の授業を行う上で必要な単元構成、教材研究、授業構想について理解し、模擬授業等を通して実践することができる。
◎	3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を展開する力	学習指導案について理解し、選択した教材を用いて学習指導案を作成することができる。
○	3-1 教育・保育に関する知識・技能を更新し続ける力	国語科における思考力・判断力・表現力の育成について具体的な指導方法を理解する。
○	2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	対話の目的と形態を知り、授業計画時に適切な形態を選択できるようにする。
○	2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	国語科の授業を行う上で必要な単元構成、教材研究、授業構想について理解し、模擬授業を行い、自己評価、考察ができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	0%
小テスト	0%
レポート	40%
発表・実技	40%
授業内課題	20%
その他（ ）	0%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	授業づくりの基本1　単元構成	学習指導要領の指導目標や指導事項を確認し、国語科単元学習の構成 のポイント（ICT機器の活用を含む）について理解する。	国語の授業について振り返り心	45分
2	授業づくりの基本2　教材研究	″教材研究の方法を知り、実際に教材分析を進めながら理解を深める。	国語科単元の構成についてポイ	120分
3	授業づくりの基本3　学習指導案	学習指導案の目的、内容、作成方法について知る。	教材研究・発問や板書について	120分
4	授業づくりの基本４　発問・板書	発問や板書について基本を知り、演習を行う。	思考力の育成についてポイント	120分
5	授業づくりの応用　模擬授業①	模擬授業を行い、板書、発問、授業の流れ等を具体的に検討する。	次時に行う模擬授業の教材につ	120分
6	授業づくりの応用　模擬授業②	模擬授業を行い、板書、発問、授業の流れ等を具体的に検討する。	次時に行う模擬授業の教材につ	120分
7	授業づくりの応用　模擬授業③	模擬授業を行い、板書、発問、授業の流れ等を具体的に検討する。	次時に行う模擬授業の教材につ	120分
8	授授業づくりの応用　模擬授業④	模擬授業を行い、板書、発問、授業の流れ等を具体的に検討する。	次時に行う模擬授業の教材につ	120分
9	授業づくりの応用　模擬授業⑤	模擬授業を行い、板書、発問、授業の流れ等を具体的に検討する。	次時に行う模擬授業の教材につ	120分
10	授業づくりの応用　模擬授業⑥	模擬授業を行い、板書、発問、授業の流れ等を具体的に検討する。	次時に行う模擬授業の教材につ	120分
11	授業づくりの応用　模擬授業⑦	模擬授業を行い、板書、発問、授業の流れ等を具体的に検討する。	次時に行う模擬授業の教材につ	120分
12	授業づくりの応用　模擬授業⑧	模擬授業を行い、板書、発問、授業の流れ等を具体的に検討する。	次時に行う模擬授業の教材につ	120分
13	授業づくりの応用　模擬授業⑨	模擬授業を行い、板書、発問、授業の流れ等を具体的に検討する。	次時に行う模擬授業の教材につ	120分
14	授業づくりの応用　模擬授業⑩	国語科での思考力･表現力の育成・主体的に学習に取り組む態度を検討する。	思考力･表現力の育成についてま	120分
15	授業づくりの応用　まとめ	書く･話す･聞く･読むを組み合わせた学習について演習を行い検討する。	国語科の授業づくりについて整	120分

《専門教育科目》

科目名	初等社会科教育法			科目ナンバリング	509ST22200
担当者氏名	關　浩和			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2　・　選択	開講年次・開講期	2　年　・　Ⅱ期

《授業の概要》

本講義では，社会科の教科理念を把握し，社会科の性格や目標，内容，授業構成の仕方，学習計画の立案，評価の方法など社会科の授業づくりに関する基本を理解することができる。また本授業により，社会科の教師として１単元，１時間の授業を行うためには，「何をどのようにすればよいのか」を体得し，その学修成果を教育実習やその後の教育実践に活かせるようになることが求められます。

《授業外学習》

・講義の中で興味をもった事柄について，参考文献や資料を基に各自で調べ，自分のめざす社会科授業とは，どんな授業にしたいかを個々に考える。
・普段からニュースや新聞などに目を通して，幅広い視野から講義内容について理解できるようにする。

《テキスト》

關浩和『初等社会科内容論研究』吉本宝文堂，2022年．　頒布価格1,000円。必ず購入してください。　１年次で履修した「初等社会科内容論」で使用したテキストです。

《学習状況・理解度の確認》

・社会科の基礎的知識の定着を図るため，毎回の講義で小テストを実施する。

《参考図書》

・文部科学省（2017）『小学校学習指導要領解説社会編』文部科学省HP

《備考》

Social Studies Teaching Methodology ・まじめに参加することが大事です。授業では，アクティブラーニングの要素を含んだ模擬授業を受講生個々に実施しますので，プレゼンテーションソフトを使用したICT活用を積極的に使用することを求めています。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	学習指導要領における社会科の目標，内容，カリキュラムの基本原理について理解している。
○	3-1 教育・保育に関する知識・技能を更新し続ける力	各学年における社会科の学習内容を理解するとともに，学習内容が設定されている理由を説明することができる。
○	3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を展開する力	社会科の学習目標や内容とその背景にある学問との関係性を意識しながら，教材研究や社会科模擬授業に活用している。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	0%
小テスト	0%
レポート	30%
発表・実技	40%
授業内課題	30%
その他（ ）	0%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	社会科の基本的性格	社会科授業における社会認識形成や公民的資質の育成の視点から理解するとともに，研究対象とする単元を選定する。	単元設定 内容整理	45分
2	第３学年社会科授業事例研究	第３学年社会科学習に関わる授業実践の動画を視聴し，何に着目して授業づくりをすればいいのかを理解する。	教材研究 内容整理	45分
3	第４学年社会科授業事例研究	第４学年社会科学習に関わる授業実践の動画を視聴し，何に着目して授業づくりをすればいいのかを理解する。	教材研究 内容整理	45分
4	第５学年社会科授業事例研究	第５学年社会科学習に関わる授業実践の動画を視聴し，何に着目して授業づくりをすればいいのかを理解する。	教材研究 内容整理	45分
5	第６学年社会科授業事例研究	第６学年社会科学習に関わる授業実践の動画を視聴し，何に着目して授業づくりをすればいいのかを理解する。	教材研究 内容整理	60分
6	社会科授業設計の理論	社会科授業における発問・指示・説明の教師の教授行為に着目をして子どもの知的好奇心を喚起できる社会科授業設計について考える。	授業デザイン作成 内容整理	60分
7	社会科授業における教育技術	社会科授業における板書構成に着目をして，機能的な板書とともに，子どもの意見で構成する板書の活用について理解する。	授業デザイン作成 内容整理	60分
8	社会科学習指導案の作成	単元目標や評価規準の設定，単元設定の理由，本時の学習過程など学習指導案作成のための基本的事項を理解する。	学習指導案作成 内容整理	90分
9	社会科授業実践１－教材研究発表－	模擬授業で対象とする単元の教材研究の成果を発表し，社会科授業における教材研究の重要性を理解する。	教材研究 内容整理	90分
10	社会科授業実践２－学習指導案発表－	単元目標や評価規準の設定，単元設定の理由，本時の学習過程などを組み込んだ学習指導案を発表し，発問と板書計画を絡めて模擬授業実践につなげることができる。	学習指導案作成 内容整理	90分
11	社会科授業実践３－模擬授業１－	第３学年を選択した受講生が，1時間の社会科授業において，ICT活用をした実践を行い，全体で社会科授業のあり方について討議する。	模擬授業準備	60分
12	社会科授業実践４－模擬授業２－	第４学年を選択した受講生が，1時間の社会科授業において，ICT活用をした実践を行い，全体で社会科授業のあり方について討議する。	模擬授業準備	60分
13	社会科授業実践５－模擬授業３－	第５学年を選択した受講生が，1時間の社会科授業において，ICT活用をした実践を行い，全体で社会科授業のあり方について討議する。	模擬授業準備	60分
14	社会科授業実践６－模擬授業４－	第６学年を選択した受講生が，1時間の社会科授業において，ICT活用をした実践を行い，全体で社会科授業のあり方について討議する。	模擬授業準備	60分
15	社会科の授業設計の理論と方法	社会科の教科理念を把握し，社会科の授業設計に関する基本を理解することができる。	社会科授業設計 講義総括	60分

《専門教育科目》

科目名	初等算数科教育法			科目ナンバリング	509ST22300
担当者氏名	赤井　利行			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2　・　選択	開講年次・開講期	2　年　・　Ⅰ期

《授業の概要》
受講者が学習指導要領に示された小学校算数科の教育目標や指導内容を理解する。また、小学校算数科における児童の学習の実際や特徴について理解するとともに、学習評価の在り方について理解する。そして、小学校算数科の実践に必要な基本的な指導技術を身に付ける。さらに、小学校算数科における基本的な指導方法を理解し、授業づくりの方法を身に付ける。

《授業外学習》
インターンシップ等の活動の折、授業で考察した観点から算数科授業を観察する。

《テキスト》
・文部科学省「学習指導要領解説算数科編」

《学習状況・理解度の確認》
レポート、学習指導案等に対して別の用紙にコメントを記入して配布する。・解からないことはふオフィスアワー等で質問を受け付ける。・授業の到達目標に対しては、全体講評を行い、次年度目標に反映させる。

《参考図書》
・赤井利行編「表現力を育成する新算数科教材開発第２学年」明治図書

《備考》
・小学校算数科授業が展開できる基礎的な知識・技能を修得することを求める。　・プレゼン、グループ討議を行う。　・授業担当者は広島大学附属小学校教員の実務経験者である。　Instructional Content for Elementary School Arithmetic

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	学習指導要領をもとに、算数科授業の目標や授業に向けた学習環境の構成及び教材研究の取り組み方を理解できる。
○	3-1 教育・保育に関する知識・技能を更新し続ける力	グループで作成した学習指導案を基に授業を展開し、よりよい授業に修正し、作ることができる。
◎	3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を展開する力	自力解決や集団解決の場で児童への対応など教師の役割を理解することができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	0%
小テスト	0%
レポート	20%
発表・実技	70%
授業内課題	10%
その他（ ）	0%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	オリエンテーション	小学校算数科指導のねらいとその方法を理解する。	教科書を読む	60分
2	学習指導要領の分析	小学校算数科指導の目標と、授業構成の関係を理解する。	学習指導要領を読む	60分
3	教材研究の視点	授業における数学的活動	教科書を読む	60分
4	授業における数学的活動	授業ビデオを基に、児童の理解を促す数学的活動を理解し、その数学的活動を体験する。	学習ノートを読む	60分
5	授業における個への対応	授業ビデオを基に、自力解決や集団解決の場で児童の理解の差にどのように対応し、理解を促すか、その手立てを理解する。	学習ノートを読む	60分
6	学習評価	机間指導、集団解決の場など様々な学習場面での評価の方法を理解する。	教科書を読む	60分
7	数学的表現の育成	児童の表現活動が既習事項の活用、視覚的表現の活用、論理的な表現で構成されていることを理解する。	教科書を読む	60分
8	ICTの活用	ICTの活用について、先進校で取り入れられている方法を理解し、これからの方向性について考察する。	教科書を読む	60分
9	教材研究	小学校２年生の教材について、模擬授業を行うにあたり、どのように指導するのかその教材を分析し、検討する。	教科書を読む	60分
10	学習指導案の作成	教育実習及び小学校現場で行われている授業研究に際し、用いられる学習指導案を作成することができるようにする。	教科書を読む	60分
11	数と計算の模擬授業	学生自身が作成した数と計算の学習指導案に基づいて、授業を担当し、学生相互で授業の生家について評価しあう。	学習指導案を読む	60分
12	図形の模擬授業	学生自身が作成した図形の学習指導案に基づいて、授業を担当し、学生相互で授業の生家について評価しあう。	学習指導案を読む	60分
13	測定の模擬授業	学生自身が作成した測定の学習指導案に基づいて、授業を担当し、学生相互で授業の生家について評価しあう。	学習指導案を読む	60分
14	データの活用の模擬授業習	学生自身が作成したデータの活用の学習指導案に基づいて、授業を担当し、学生相互で授業の生家について評価しあう。	学習指導案を読む	60分
15	総括	授業ビデオを観察し、受講者が作成した学習指導案と比較し、よりよい学習指導案を作るように修正し、学習指導案の作成の理解を深める。	教科書を読む	60分

《専門教育科目》

科目名	初等理科教育法			科目ナンバリング	509ST22400
担当者氏名	安部　洋一郎			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2　・　選択	開講年次・開講期	2　年　・　Ⅱ期

《授業の概要》

″本授業で扱う本質的理解は、指導要領における理科の目標の理解とし、各授業時間の学習における学びを、指導要領における目標の文言に結び付けて理解を深めるものとする。
理科の好きな児童は多いが教師にとって理科は指導の難しい教科であるととらえられることも多い。児童の主体的な問題解決を通して資質・能力の育成を行うためにも、理科の面白さを教師が再認識することが重要である。本授業では理科授業を指導する方法だけでなく、理科教育研究の知見から学ぶ理科教育の在り方への理解とともに、理科を学ぶことの面白さと理科を指導することの喜びを感じることを目的とする。そのた

《テキスト》

文部科学省（2018）『小学校学習指導要領解説理科編』東洋館出版社 小学校理科教科書（2019）『わくわく理科３～６年』新興出版社啓林館

《参考図書》

山下芳樹・平田豊誠（編著）（2018）『初等理科教育（新しい教職教育講座　教科教育編 4）』ミネルヴァ書房

《授業外学習》

本授業では、学習の成果として指導案を作成するが、作成にあたっての準備、計画、予備実験や、授業時間内に記述できなかった箇所の記述、パソコンで文章を作成する作業など、授業外の時間にも作業する必要がある。また、各授業の予習、復習を行うことで、学習内容の確実な定着を図ってほしい。

《学習状況・理解度の確認》

指導案の記述等をもって指導内容の理解を確認する。

《備考》

Teaching Method of Science for the Elementary School ・授業ではディスカッションやグループワーク、実習を行う。 ・科目担当者は実務経験者（西宮市立公立小学校教員、西宮市教育委員会）である。 ・授業態度や、課題の提出、授業への出席に明らかな問題がある学生はそれを成績に反映させる。 ・教員連絡先、課題提出先　abe@hyogo-dai.ac.jp

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	児童の学びの本質を捉え教育学の知見を活かした授業実践を行うことができる。
○	3-1 教育・保育に関する知識・技能を更新し続ける力	ＩＣＴ等の授業技術を用いた理科授業を構想することができる。
◎	3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を展開する力	学習指導要領における理科の目標を理解し、それぞれの単元の学習指導を行う十分な知識のもとに、問題解決を通した理科授業を構想することができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	
小テスト	
レポート	50%
発表・実技	40%
授業内課題	10%
その他（ ）	
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	問題解決の過程	具体的な問題解決場面での活動と指導要領の参照を通して、小学校理科授業を概観的に理解する。	授業の内容を振り返る	90分
2	理科教育のねらい	教科書をもとに、各授業で習得を図る資質・能力とは何かを考え、教育基本法の記述や、PISA等の国際調査からそれを深める。	授業の内容を振り返る	90分
3	理科教育の特徴とＩＣＴの活用	「見方・考え方」や「科学的」など、他の教科と異なる理科教育の特徴を学び、その視点から授業を見つめなおし、ＩＣＴを効果的に活用することで授業を改善する方法を学ぶ。	授業の内容を振り返る	90分
4	知識・理解の構造	小学校で扱う科学的内容に関する素朴概念や確証バイアスなどの理解に関わる認知的構造を学び、概念を再構成する授業の在り方を検討する。	授業の内容を振り返る	90分
5	観察による仮説検証、発見とＩＣＴの活用	具体的な観察活動を通して、理論負荷性による観察の困難を学び、児童による観察を深めるための方法を考える。また、ＩＣＴを活用した観察の手法を学ぶ。	授業の内容を振り返る	90分
6	評価について	理科授業で行う評価の在り方についてその方法論を学び、実際の評価活動を通して具体を理解する。	授業の内容を振り返る	90分
7	問題作り場面の指導	第3学年の学習を材料に、児童が主体的に問題作りを行うための指導方法を考える。	授業の内容を振り返る	90分
8	予想・仮説形成場面の指導とＩＣＴの活用	第4学年の学習を材料に、児童が主体的に予想・仮説形成を行うための指導方法を考え、ＩＣＴを活用した授業改善の方法を学ぶ。	授業の内容を振り返る	90分
9	解決の方法の立案場面の指導	第5学年の学習を材料に、児童が主体的に解決の方法の立案を行うための指導方法を考える。	授業の内容を振り返る	90分
10	より妥当な考えの形成場面の指導	第6学年の学習を材料に、児童が主体的に解決の方法の立案を行うための指導方法を考える。	授業の内容を振り返る	90分
11	理科教育研究総論	理科教育研究の歴史的経緯を踏まえつつ、今日の理科教育の在り方を概観する。	授業の内容を振り返る	90分
12	指導案の理解と作成	指導案の役割と書き方を知り、必要に応じて実際の実験器具を参照しながら本時案について記述する。	指導案作成の準備、記述を行う	90分
13	指導案の理解と作成	他の学生の記述した指導案を参照し自分の指導案を振り返るとともに、単元計画について記述する。また、評価の具体的な方法を検討する。	指導案作成の準備、記述を行う	90分
14	指導案の理解と作成	指導案における文章記述について知り、趣旨を記述する。	指導案作成の準備、記述を行う	90分
15	模擬授業の実施とふり返り	模擬授業と事後検討会の実施を通して、授業研究の在り方を知り、自分たちの力で授業研究会を進める力を身に付ける。	授業の内容を振り返る	90分

《専門教育科目》

科目名	初等生活科教育法			科目ナンバリング	509ST22500
担当者氏名	關　浩和			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2　・　選択	開講年次・開講期	2　年　・　Ⅰ期

《授業の概要》

本講義は，生活科の教科理念を把握し，生活科の性格や目標，内容，授業構成の仕方，学習計画の立案，評価の方法など社会科の授業づくりに関する基本を理解することができる。また，本講義は，生活科教師として１単元，１時間の授業を行うためには，「何をどのようにすればよいのか」を体得し，その学修成果を教育実習やその後の教育実践に活かせるようになることが求められます。

《授業外学習》

・講義の中で興味をもった事柄について，参考文献や資料を基に各自で調べ，自分のめざす生活科授業とは，どんな授業にしたいかを個々に考える。

《テキスト》

關浩和（2023）『初等生活科内容論研究』吉本宝文堂　頒布価格1,000円。 初等生活科内容論で使用したテキストです。新たに購入する必要はありません。

《学習状況・理解度の確認》

・毎回の講義で既習事項の確認やリフレクションを実施することで，学習内容の定着を図る。

《参考図書》

・文部科学省（2017）『小学校学習指導要領解説生活編』文部科学省HP

《備考》

Life Environment Studies Teaching Methodology ・まじめに参加することが大事です。授業では，アクティブラーニングの要素を含んだ模擬授業を受講生個々に実施しますので，プレゼンテーションソフトを使用したICT活用を積極的に使用することを求めています。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	学習指導要領における生活科の目標，内容，カリキュラムの基本原理について理解している。
○	3-1 教育・保育に関する知識・技能を更新し続ける力	生活科の学習内容を理解するとともに，学習内容が設定されている理由を説明することができる。
○	3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を展開する力	生活科の学習目標や内容とその背景にある学問との関係を理解し，教材研究や生活科模擬授業に活用している。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	0%
小テスト	0%
レポート	30%
発表・実技	40%
授業内課題	30%
その他（ ）	0%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	生活科の基本的性格	生活科授業における社会認識や自然認識，自己認識の形成の視点から理解するとともに，研究対象とする単元を選定する。	テキストを読む 内容整理	60分
2	生活科授業事例研究１	生活科における主に「社会」を対象とした内容に関わる授業事例や授業動画を視聴して，何に着目して授業づくりをすればいいのかを理解する。	テキストを読む 内容整理	60分
3	生活科授業事例研究２	生活科における主に「自然：飼育・栽培」を対象とした内容に関わる授業事例や授業動画を視聴して，何に着目して授業づくりをすればいいのかを理解する。	テキストを読む 内容整理	60分
4	生活科授業事例研究３	生活科における主に「自然：季節」を対象とした内容に関わる授業事例や授業動画を視聴して，何に着目して授業づくりをすればいいのかを理解する。	テキストを読む 内容整理	60分
5	生活科授業事例研究４	生活科における主に「成長」を対象とした内容に関わる授業事例や授業動画を視聴して，何に着目して授業づくりをすればいいのかを理解する。	テキストを読む 内容整理	60分
6	比較・分類思考による 生活科授業デザイン	比較・分類思考を中核に据え，子どもの知的好奇心を喚起して，生活科授業設計を行うためのノウハウを学ぶ。	テキストを読む 内容整理	60分
7	生活科授業における 教育技術・活動構成	生活科授業における板書構成に着目をして，子どもの意見で構成する板書の活用と子どもの活動構成のあり方について理解する。	テキストを読む 内容整理	60分
8	生活科における体験的活動とICT活用	生活科授業において重要な役割である体験的活動のあり方や「遊び」，ICT活用を授業に取り入れる意義を考える。	テキストを読む 内容整理	60分
9	生活科学習指導案の作成	単元目標や評価規準の設定，単元設定の理由，本時の学習過程など学習指導案作成のための基本的事項を理解する。	学習指導案作成 版書計画立案	90分
10	生活科授業実践１－模擬授業１－	学校生活や社会に関する内容を選択した受講生が，1時間の生活科授業をICT活用した実践を行い，全体で生活科授業のあり方について討議する。	模擬授業準備 内容整理	90分
11	生活科授業実践２－模擬授業２－	学校の生活や自然に関する内容を選択した受講生が，1時間の生活科授業をICT活用した実践を行い，全体で生活科授業のあり方について討議する。	模擬授業準備 内容整理	90分
12	生活科授業実践３－模擬授業３－	学校の生活や自然に関する内容を選択した受講生が，1時間の生活科授業をICT活用した実践を行い，全体で生活科授業のあり方について討議する。	模擬授業準備 内容整理	90分
13	生活科授業実践４－模擬授業４－	学校の生活や成長に関する内容を選択した受講生が，1時間の生活科授業をICT活用した実践を行い，全体で生活科授業のあり方について討議する。	模擬授業準備 内容整理	90分
14	生活科授業実践５－模擬授業５－	学校の生活や成長に関する内容を選択した受講生が，1時間の生活科授業をICT活用した実践を行い，全体で生活科授業のあり方について討議する。	模擬授業準備 内容整理	90分
15	生活科の授業設計の理論と方法	生活科の教科理念を把握し，生活科の授業設計に関する基本を理解することができる。	講義総括	60分

《専門教育科目》

科目名	初等音楽科教育法			科目ナンバリング	509ST2261A
担当者氏名	井上　朋子			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2　・　選択	開講年次・開講期	2　年　・　Ⅱ期

《授業の概要》
本授業は、小学校音楽科における目標と指導内容を理解するとともに、授業実践に必要な知識と指導技術、また授業づくりの方法を身に付けることを目的とします。具体的に、まずは小学校音楽科学習指導要領に示されている各学年の目標及び指導内容、また児童期における音楽学習の実際と学習評価の在り方について学びます。最終的には、模擬授業の実施と振り返りを通して、自ら授業改善に取り組める実践的指導力を身につけます。

《授業外学習》
授業中に指示された課題や実技の練習に取り組んだうえで授業に臨みましょう。
日頃から身の回りの多様な音や音楽に関心をもつとともに、疑問に思ったことは調べる習慣をつけておきましょう。

《テキスト》
初等科音楽教育研究会編『初等科音楽教育法』音楽之友社,2020
『音楽のおくりもの１～６』教育出版 ※初等音楽科内容論と同じ教科書です

《学習状況・理解度の確認》
学習状況や理解度は、毎回の提出課題により確認します。また、提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックします。

《参考図書》
文部科学省　『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　音楽編』　東洋館出版社

《備考》
・授業担当者：小学校音楽専科の実務経験者 ・ICT活用双方向型授業です ・ペアやグループワークを取り入れます ・Teaching Methods for Elementary School (Music)

《授業の到達目標》

	ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
○	2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	小学校学習指導要領等音楽科の目標や内容、指導内容を理解している
○	3-1 教育・保育に関する知識・技能を更新し続ける力	教材研究を行い、学習指導案を作成することができる
◎	3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を展開する力	模擬授業を通して、授業改善の視点を身につけている

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	40%
小テスト	
レポート	
発表・実技	40%
授業内課題	20%
その他（ ）	
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	ガイダンス	オリエンテーション、音楽教育の意義について	授業内課題に取り組む	45分
2	音楽科の指導内容	小学校音楽科における各学年の目標や共通事項について	教科書pp. 12-26を読む	45分
3	表現領域：歌唱	歌唱教材研究と指導法	教科書pp. 52-60を読む	45分
4	表現領域：器楽	器楽教材研究と指導法	教科書pp. 61-82を読む	45分
5	表現領域：音楽づくり	音楽づくりの教材研究と指導法	教科書pp. 83-92を読む	45分
6	鑑賞領域	鑑賞教材研究と指導法―情報機器の活用	教科書pp. 93-107を読む	45分
7	音楽科の学修指導計画	指導計画の作成と学習指導案の立案	教科書pp. 27-35を読む	120分
8	音楽学習における評価	評価の観点と評価方法	教科書pp. 36-42を読む	45分
9	他教科や校種間との連携	音楽科と他教科等との関連、校種間の連携	教科書pp. 118-127を読む	45分
10	模擬授業①	模擬授業の実施と振り返り①（低学年・表現）	模擬授業の準備	60分
11	模擬授業②	模擬授業の実施と振り返り②（中学年・表現）	模擬授業の準備	60分
12	模擬授業③	模擬授業の実施と振り返り③（低中学年・鑑賞）	模擬授業の準備	60分
13	模擬授業④	模擬授業の実施と振り返り④（高学年・表現）	模擬授業の準備	60分
14	模擬授業⑤	模擬授業の実施と振り返り⑤（高学年・鑑賞）	模擬授業の準備	60分
15	学習のまとめ	総括とフィードバック	授業の総復習	120分

《専門教育科目》

科目名	初等図画工作科教育法			科目ナンバリング	509ST2271A
担当者氏名	半田　結			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2　・　選択	開講年次・開講期	2　年　・　Ⅰ期

《授業の概要》
小学校の図画工作科の内容と指導法について、ICTを活用して具体的な事例を取り上げながら学びます。小学校図画工作科学習指導要領をもとに、図画工作科の理念や背景、学習指導、小学校図画工作科の目標や内容等をふまえ、現代的な課題の理解を深めます。まとめとして、図画工作科の授業計画の一部を構想、計画して模擬授業を行い、研究討議を行います。

《授業外学習》
○子どもと直接関わる機会をもったり、子どもに関するニュースや書籍等を読んだりして、子どもを多面的に理解するよう努めましょう
○音楽や美術、ダンス、パフォーマンス、詩、文学など、自分の興味・関心のある分野について、積極的に調べたり楽しむようにしましょう

《テキスト》
新野貴則・福岡知子編著『図画工作科教育法』萌文書林、2019

《学習状況・理解度の確認》
毎回の授業毎に、学習内容の確認と次回授業への準備・予習があります。提出物や課題に対してはコメントや評価をし、必要な場合は再提出を求めます。定期試験は実施しません。

《参考図書》
小学校学習指導要領(平成29年告示)解説　図画工作編

《備考》
授業は、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションを取り入れて行います。Teaching Methods for Elementary School　(Arts and Crafts)

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	図画工作科の理念や背景について理解する
○	3-1 教育・保育に関する知識・技能を更新し続ける力	図画工作科の各学年における学習指導について理解する
◎	3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を展開する力	図画工作科の各学年における学習指導を計画できる

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	
小テスト	
レポート	
発表・実技	40%
授業内課題	40%
その他（ ）	20%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	オリエンテーション	図画工作科の意義や目的について学ぶ	テキストpp. 7-18	45分
2	図画工作科の目標と内容	学習指導要領における図画工作科の目標と内容について	テキストpp. 19-28、pp. 29-42	45分
3	子どもの成長・発達と授業づくり	子どもの成長と表現活動をふまえ、授業づくりについて学ぶ	テキストpp. 43-54、pp. 55-64	45分
4	造形遊び:材料をもとに	いろいろな材料をもとにした造形遊びに関する学習指導を行う	テキストpp. 74-85	45分
5	絵に表すを主とした指導①	絵に表すを主とした学習指導について、目標と内容を中心に行う	テキストpp. 86-89、pp. 124-129	45分
6	絵に表すを主とした指導②	絵に表すを主とした学習指導について、指導方法、用具・材料の扱いを中心に行う	テキストpp. 138-149	45分
7	立体に表すを主とした指導①	立体に表すを主とした学習指導について、目標と内容を中心に行う	テキストpp. 70-73、pp. 90-93	45分
8	立体に表すを主とした指導②	立体に表すを主とした学習指導について、指導方法、用具・材料の扱いを中心に行う	テキストpp. 138-149	45分
9	鑑賞に関する学習指導①	ICTを活用して美術作品の情報収集を行い、グループワークを通して、鑑賞の目標と内容について学ぶ	テキストpp. 94-97 、pp. 110-113	45分
10	鑑賞に関する学習指導②	ICTを活用して美術作品の情報収集を行い、グループワークを通して、指導方法について学ぶ	テキストpp. 150-159	45分
11	図画工作科の評価	図画工作科における評価の理論と実際について学ぶ	テキストpp. 130-137	45分
12	学習指導計画の立案と教材研究①	学習指導案を作成する	テキストpp19-28、pp. 55-64	45分
13	学習指導計画の立案と教材研究②	模擬授業を実施し、振り返りを行う	テキストpp19-28、pp. 55-64	45分
14	学習指導計画の立案と教材研究③	学習指導案の再検討と修正を行う	テキストpp. 130-137	45分
15	振り返りとまとめ	これまでの学修を振り返り、実践に向けた課題を明らかにする	テキストpp. 7-18	45分

《専門教育科目》

科目名	初等家庭科教育法			科目ナンバリング	509ST22800
担当者氏名	相川　美和子			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2　・　選択	開講年次・開講期	2　年　・　Ⅱ期

《授業の概要》

小学校学習指導要領（家庭編）の内容を踏まえて、単元ごとの学習目標を明確にした指導案作成を行うことによって、指導の方法・形態は多様にあることを理解する。更に模擬授業を通して実践力を高めると同時に、指導と評価の一体化について考察しながら授業技術の向上を目指すことを目標とする。

《授業外学習》

・授業で使用する　学習指導要領解説と教科書を全体的に通読しておくこと。　・家庭科の内容は、社会の変化に対応して新しい課題に取り組む必要があるため、ノートや資料を工夫して整理しておくこと。・自分の生活環境を見つめなおし、授業設計につながる課題を発見する探求心を養うこと。・次時の授業に関連した事前学習の指示に従って、予習または復習を行うこと。

《テキスト》

・文部科学省　小学校学習指導要領解説（家庭編）　・教科書
小学校わたしたちの家庭科（５・６）開隆堂

《学習状況・理解度の確認》

・授業内容の定着を図るため、ポートフォリオを作成する。・実習の製作品や実習記録を確認する。・模擬授業と評価表をグループ討議によって相互評価し、更に講評を加える。

《参考図書》

随時関連資料を配布

《備考》

・グループワーク、ディスカッションにおいては、積極的に情報交換することを期待する。　・初等家庭科内容論で作成したノートと新しいルーズリーフノートも持参すること。　・準備学習の内容のポートフォリオ記入は、前時の振り返りも含む。　・科目担当者は、家庭科教諭として中学校・高等学校での勤務歴のある実務経験者。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
		小学校学習指導要領解説（家庭編）の目標及び主な内容を理解し、重点を説明することができる。
○	2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	小学校家庭科指導に必要な基本的知識及び技術を身に着けるとともに、教材研究をすることができる。
○	3-1 教育・保育に関する知識・技能を更新し続ける力	小学生を取り巻く生活実態を視野に入れた指導案作成を行い、模擬授業を行うことができる。
◎	3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を展開する力	新しい生活課題を見出し、児童の主体的な学びを深める授業設計の向上に取り組むことができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	0%
小テスト	0%
レポート	0%
発表・実技	30%
授業内課題	40%
その他（ ）	30%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	小学校家庭科教育の理念と意義	小学校学習指導要領解説（家庭編）の目標及び内容・構成について理解し、今後の学習方法について確認する。	学習指導要領総説・目標の通読	45分
2	A　家族・家庭生活	「わたしの生活時間」を中心に、授業設計の要点を整理し、授業内課題に取り組む。	ポートフォリオ記入	45分
3	B　衣食住の生活 食生活（1）	「食生活」の内容に関する指導の留意点について、「食育」「食事の役割」を背景とした広い視野から理解する。	教科書の関連部分を通読　実習	45分
4	B　衣食住の生活 食生活（2）	「調理の基礎」「栄養を考えた食事」に関する実技に取り組む。	ポートフォリオ記入	45分
5	B　衣食住の生活 衣生活（1）	「衣生活」の内容に関する指導の留意点について理解する。	教科書の関連部分を通読　実習	60分
6	B　衣食住の生活 衣生活（2）	「生活を豊かにするために布を用いた物の製作」を題材に、実習を伴う授業設計の要点について理解し、実技に取り組む。	ポートフォリオ記入　実習の補習	60分
7	B　衣食住の生活 住生活（1）	「住生活」の内容に関する指導の留意点について理解し、災害教育と関連付けて教材研究することの重要性を理解する。	ポートフォリオ記入	45分
8	C　消費生活・環境	環境に配慮した消費生活と持続可能な社会の関連を確認し、指導の留意点について理解する。	関連事項の調べ学習	60分
9	授業設計と学習指導案	ICTを効率的に取り入れた授業設計と学習指導案の構成要素について理解する。	ポートフォリオ記入	45分
10	模擬授業指導案作成	具体的な授業を想定した授業設計をし、学習指導案を作成する。	指導案の確認 ポートフォリオ	90分
11	模擬授業と相互評価（1）	子どもの実態を踏まえ、指導者独自の視点で授業設計がされているか相互評価しながら模擬授業を行う。	指導案の確認 ポートフォリオ	60分
12	模擬授業と相互評価（2）	子どもの実態を踏まえ、指導者独自の視点で授業設計がされているか相互評価しながら、模擬授業を行う。	指導案の確認 ポートフォリオ	60分
13	模擬授業と相互評価（3）	子どもの実態を踏まえ、指導者独自の視点で授業設計がされているか相互評価しながら、模擬授業を行う。	相互評価表提出準備	60分
14	模擬授業事後指導	模擬授業についての自己評価と相互評価を基に、授業改善に向けた討議を行う。	ポートフォリオの提出準備	60分
15	総括　授業力向上に向けて	教科の特性のまとめ、指導と評価の一体化について確認し、授業力向上に向けて総括をする。	授業設計について整理する。	45分

《専門教育科目》

科目名	初等体育科教育法			科目ナンバリング	509ST22900
担当者氏名	筒井　茂喜			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2　・　選択	開講年次・開講期	2　年　・　Ⅰ期

《授業の概要》
1年次で学修したことを踏まえ、実践的指導力の習得をめざす。具体的には、「よい体育授業づくり」の基底的条件及び内容的条件を理解するとともに、「できない子ども」に対する具体的指導法（例えば、跳び箱が跳べない子どもへの指導、長縄跳びができない子どもへの指導など）を実技を通して学び実践力の向上を図る。

《授業外学習》
事前学習（予習）
・次回の授業範囲を配布資料及び関連する文献で予習し、概要をつかんでおく。
事後学習（復習）
・授業後は、配布資料及び関連した文献を読み、理解の定着及び深化を図る。

《テキスト》
『小学校学習指導要領解説保健体育編』、文部科学省、 東山書房

《学習状況・理解度の確認》
講義後に学びの振り返り及びレポート作成を通して知識の定着と深化を図る。

《参考図書》
『内容学と架橋する保健体育科教育論』、後藤幸弘・上原禎弘編、　晃洋書房『3ステップで変わる　実技教科指導ガイドブック』小竹光夫編、明治図書

《備考》
・グループディスカッションを行う。　・常に「問い」を持ち、講義に臨むことを期待する。　・実技指導では、指導法の実際を積極的に学びことを期待する。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
		運動有能感を高める体育授業を実践するための知識と指導技術を身につける。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	0%
小テスト	0%
レポート	40%
発表・実技	50%
授業内課題	10%
その他（ ）	0%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	オリエンテーション	本講義の概要を知るとともに、優れた実践から本講義で身につける指導力の具体を理解する。	配布資料の通読	45分
2	よい体育授業について	優れた体育授業実践から「よい体育授業」の基底条件、内容条件について学ぶ。	配布資料の通読	45分
3	体つくり運動について	体つくり運動の目標及び内容について学ぶ。	配布資料の通読	45分
4	体つくり運動の指導① －体ほぐしの運動と多様な動きをつくる運動－	心と体を解放する体ほぐしの運動と多様な動きを身につける運動の実際を学ぶ。	配布資料の通読	60分
5	体つくり運動の指導② －長縄跳びを例に－	長縄跳びが苦手な子どもへの指導法の実際について学ぶ。具体的には、長縄跳び運動の技の系統性及び運動構造を踏まえたスモールステップによる指導法を身につける	配布資料の通読	60分
6	器械運動について	器械運動の目標及び内容について学ぶ	配布資料の通読	60分
7	器械運動の指導② －前転・後転を例に－	マット運動（前転・後転）が苦手な子どもへの指導法の実際について学ぶ。具体的には、前転・後転を例にしてマット運動の技の系統性及び運動構造を踏まえたスモールステップによる指導法を身につける	配布資料の通読	60分
8	器械運動の指導① －開脚跳びを例に－	開脚跳びが苦手な子どもへの指導法の実際について学ぶ。具体的には、開脚跳びを例にして跳び運動の技の系統性及び運動構造を踏まえたスモールステップによる指導法を身につける	配布資料の通読	60分
9	陸上運動について	陸上運動の目標及び内容について学ぶ	配布資料の通読	60分
10	陸上運動の指導 －折り返しリレーを例に－	リレーの教材価値を踏まえた指導法の実際について学ぶ。具体的には、低学年折り返しリレーを例にして、子どもがリレーに熱中する教材をつくる方法、指導法を身につける	配布資料の通読	60分
11	陸上運動の指導 ―トラックリレーを例に―	利得タイムを競い合うリレー教材及び指導法を身につける	配布資料の通読	60分
12	ボール運動について	ボール運動の目標及び内容について理解する。	配布資料の通読	60分
13	ボール運動の指導① －ならびっこベースボールを例に－	ベースボール型ゲームの教材価値を踏まえた指導法の実際について学ぶ。具体的には、低学年用ベースボール型ゲーム教材「ならびっこベースボール」を例にして、ボール運動が苦手な子どもも積極的に参加できるベースボール型ゲームの教材をつくる方法、指導法を身につける	配布資料の通読	60分
14	ボール運動の指導② －フットビーを例に－	ゴール型ゲームの教材価値を踏まえた指導法の実際について学ぶ。具体的には、中・高学年用ゴール型ゲーム教材「フットビー」を例にして、ボール運動が苦手な子どもも積極的に参加できるゴール型ゲームの教材をつくる方法、指導法を身につける	配布資料の通読	60分
15	まとめ	講義を振り返り、運動が苦手な児童への指導の原則をまとめる。	学びのふり返りをレポートにまとめる	60分

《専門教育科目》

科目名	初等英語科教育法			科目ナンバリング	509ST23000
担当者氏名	大牛　英則			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2　・　選択	開講年次・開講期	2　年　・　Ⅰ期

《授業の概要》

小学校における外国語教育に係る背景知識・主教材、小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割、児童期の第二言語習得の特徴、多様な指導環境について理解し、授業実践に必要な基本的な指導技術や実際の授業づくりに必要な知識・技術を身に付けることを目指す。

《授業外学習》

授業外の学習として、『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　外国語活動・外国語編』を熟読し、次の内容について整理しておく必要がある。

・小学校外国語活動および外国語科の目標
・各学年において求められている学習内容と学習方法

《テキスト》

小川隆夫、東仁美『小学校英語　はじめる教科書』mpi松香フォニックス、2022

《学習状況・理解度の確認》

各回で学習した内容を理解・習得しているかの確認を次のように行う。 小テスト、レポート：学習内容について数回に分けて実施し、授業中にフィードバックする。 実技・授業内課題：授業内でパフォーマンステストを行い、その都度フィードバックする。 上記いずれも第1回授業または実施前に、実施日および実施方法について連絡する。

《参考図書》

文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　外国語活動・外国語編』 文部科学省『Let's Try!1』『Let's Try!2』東京書籍、2019

《備考》

・グループワーク／ペアワークを行うことを前提とする。 ・主体的かつ意欲的に授業に参加することを期待する。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
		小学校における外国語活動（中学年）・外国語科（高学年）の学習・指導・評価に関する基本的な知識を理解し、それぞれの活動の意図を説明できる。
		小学校における外国語活動（中学年）・外国語科（高学年）の学習・指導・評価に関する基本的な指導技術を身に付け、教具的な指導を実施することができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	20%
小テスト	20%
レポート	20%
発表・実技	20%
授業内課題	20%
その他（ ）	0%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	小学校教育の理念、学習指導要領に見る外国語活動・外国語科	授業計画、成績評価の方法と評価の割合等の確認 小学校学習指導要領に記載されている小学校教育の理念や外国語活動・外国語科設置の趣旨について学ぶ。 外国語活動・外国語科のそれぞれの目標と目標の関連性、連続性について学ぶ。	小学校学習指導要領の通読 ﾃｷｽﾄ	60分
2	中高学年の接続、小中の連携と小学校の役割	外国語活動と外国語科の接続の在り方および小学校・中学校の連携における小学校外国語教育の役割を学ぶことを通して、我が国における英語教育の一貫性について理解する。	ﾃｷｽﾄp. 14-17、142-5	60分
3	発達心理学の基礎、児童や学校の多様性への対応	多様な児童が存在する学級の現状を踏まえインクルーシブ教育の考え方に即した指導のあり方と多様な児童への対応の仕方について学ぶ。	ﾃｷｽﾄp. 18-21、p. 146-9、p. 154-	60分
4	外国語活動・外国語科の目標、言語使用を通した言語習得・音声によるインプット	学習指導要領に示された目標および言語習得を目的とする活動の在り方について学ぶ。	ﾃｷｽﾄp. 22-5、p. 150-3	60分
5	コミュニケーションの目的や場面、状況等を明確にした言語活動	言語活動を設定する際に必要となる考え方を理解し、授業を実施する際のポイントについて学ぶ。	ﾃｷｽﾄp. 26-9、配付資料	60分
6	言葉への気づき・文字言語との出合い、音声から文字へ	領域「聞くこと」「話すこと」から領域「読むこと」「書くこと」への移行をどのように行うか、またその際の児童はどのような思考を巡らせるかについて学ぶ。	ﾃｷｽﾄp. 30-3、p. 112-5、p. 162-	60分
7	読む活動から書く活動への導き方	身の回りにある様々な文字や歌詞を読むことを通して、読む活動から書く活動への導き方について学ぶ。	ﾃｷｽﾄp. 42-5	60分
8	Classroom English, Small Talk, Teacher Talk	授業中における教師の発話の種類とその特徴、および児童の発話を促す方法について実践を通して身につける。	ﾃｷｽﾄp. 38-41、配付資料	60分
9	題材の選定と中学年・高学年に適した教材	各学年における目標を踏まえた教材選定の視点と教材例について学ぶ。	ﾃｷｽﾄp. 46-9、p. 174-7	60分
10	学習到達目標、指導計画	年間指導計画に基づいた単元における到達目標設定の仕方およびその指導計画作成の在り方（カリキュラム・マネジメント）について学ぶ。	ﾃｷｽﾄp. 50-3、配付資料	60分
11	学習指導案の作り方	単元指導計画および学習指導案作成の方法について、これまでの学修内容をもとに実際例を検証する。	ﾃｷｽﾄp. 54-57	60分
12	ALT等とのティーム・ティーチングによる指導	ティーム・ティーチングを実施するためのALT等との打合せ、授業中におけるそれぞれの役割について、これまでの学修内容をもとに実際例を検証する。	ﾃｷｽﾄp. 58-61、p. 158-61	60分
13	読み聞かせ・発表活動の指導	絵本の読み聞かせ、領域「話すこと（発表）」における発表活動の指導の方法について学び、演習する。	ﾃｷｽﾄp. 178-97	60分
14	ICT等の活用の仕方	各領域の目標を達成するために効果的なICT機器活用の在り方と基本的な活用方法について学ぶ。	ﾃｷｽﾄp. 62-65	60分
15	学習状況の評価（パフォーマンス評価）	パフォーマンステスト実施に向けた課題設定の仕方およびルーブリック作成の方法・評価の在り方について学ぶ。	ﾃｷｽﾄp. 66-69、p. 166-9	60分

《専門教育科目》

科目名	ふれあい体験活動			科目ナンバリング	509ST31100
担当者氏名	大江　実代子			担　当　形　態	共担
授業方法	実習	単位・必選	1　・　選択	開講年次・開講期	1　年　・　Ⅱ期

《授業の概要》

・本授業では、幼稚園・小学校において、子どもたちとのふれあいを中心とし、見学・観察・参加の体験を通して児童理解を深め、教員となる意欲と構えを養う。

《授業外学習》

・新聞､テレビ、Web等での教育に関する時事問題に関心を持ち、教師として問題を捉える。
・多角的な視点をもち「子どもとのふれあい」について調べる。
・実習記録は毎日丁寧に記録する。

《テキスト》

授業時にハンドアウトを配布する。

《学習状況・理解度の確認》

・実習校において授業や行事の補助、子どもとのふれあいを通して、観察したことを記録する実習ノート、実習のまとめとして｢学んだこと｣（A4　1枚）を確認し返却する。

《参考図書》

文部科学省（2018）『幼稚園教育要領』、文部科学省（2017）『学習指導要領』

《備考》

・実習においては、事前学修で扱う実習生としてのマナー・ルール等を遵守　　する。学生個人の解釈でそれらを逸脱した場合は、単位取得に影響する。　・指導者は実務経験有（小学校教員・校長/保育士/幼稚園教諭）　Interact experience activities

《授業の到達目標》

	ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
◎	1-2 使命感と情熱をもって教育・保育を実践する力	教師は、子どもたちをよく観察し、意味を持って指示や促し・評価等、状況や場面により、様々な働きかけることを理解することができる。
○	1-1 豊かな人間性をもって人と関わる力	教師のことばかけ、子どもへのかかわり方などを直接見聞きすることで、愛情をもって子どもに接する大切さを理解することができる。
○	1-3 多様な人と協働し、地域社会に貢献する力	学校が運営されるには、学級担任だけでなく、養護、音楽などの専科や事務、用務などの様々な立場の人が責任をもって職務に当たっていることを理解することができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	0%
小テスト	0%
レポート	40%
発表・実技	50%
授業内課題	10%
その他（ ）	0%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	実習の目的	ふれあい体験活動の意義と目的を確認する。	意義と目的、実習への抱負をまとめる。	45分
2	実習の内容・流れ	心構え及び実習記録の形式を知り、何をどう観察するかを考える。　関係書類の記載について確認する。	内容や流れを確認し、考察する。	45分
3	子どもとのふれあい	子どもとのふれあい方についてグループワークで検討する。	遊びを中心にふれあいについて調べる。	120分
4	ふれあい体験活動　1	幼稚園･小学校において､主として、遊びを通して子どもたちの言動を観察する。	観察の視点を確認する。	45分
5	ふれあい体験活動　2	幼稚園･小学校において､主として、遊びを通して子どもたちの友だち関係などを観察する。	実習への心構えを確認する。	45分
6	ふれあい体験活動　3	幼稚園･小学校において､主として朝の会や終わりの会、給食などの学校生活の流れを観察する。	実習記録記載	60分
7	ふれあい体験活動　4	幼稚園･小学校において､主として特別活動の時間や特別の教科道徳の時間の学習の流れを観察する。	実習記録記載	60分
8	ふれあい体験活動　5	幼稚園･小学校において､主として授業を参観し､指導者（教師）の発問や板書を観察する。	実習記録記載	60分
9	ふれあい体験活動　6	幼稚園･小学校において､主として授業を参観し､指導者（教師）の発問や板書を観察する。	実習記録記載	60分
10	ふれあい体験活動　7	幼稚園･小学校において､主として授業を参観し､発問､指示を受けた子どもたちの反応を観察する。	実習記録記載	60分
11	ふれあい体験活動　8	幼稚園･小学校において､主として授業を参観し､発問､指示を受けた子どもたちの様子を記録する。	実習記録記載	60分
12	ふれあい体験活動　9	幼稚園、小学校において、自分なりの視点で観察を深める。	実習記録記載	60分
13	ふれあい体験活動　報告会1	ふれあい体験活動実習を通して学んだことをスライドにまとめ、プレゼンテーションする。	報告を聞き、学びを深める	60分
14	ふれあい体験活動　報告会2	ふれあい体験活動実習を通して学んだことをスライドにまとめ、プレゼンテーションする。	報告を聞き、学びを深める	60分
15	ふれあい体験活動　報告会3	ふれあい体験活動実習を通して学んだことをスライドにまとめ、プレゼンテーションする。	報告を聞き、学びを深める	60分

《専門教育科目》

科目名	インターンシップⅠ			科目ナンバリング	509ST31200
担当者氏名	大江　実代子			担　当　形　態	共担
授業方法	実習	単位・必選	1　・　選択	開講年次・開講期	2　年　・　通年

《授業の概要》

学校教育現場におけるインターンシップおよび事前事後の学内授業を通して、学問知（理論知）と実践知の往還を目指す。学校現場では、児童理解を一層深めるとともに、教員の役割や使命、職務を知る。また、指導の具体に触れ、指導者としての視点を学ぶ。特に、実習後に行う報告会では、他の学習者と指導のあり方について意見を交流することを重視し、次年度以降の教育実習・保育実習に生かすというプロセスを踏む。

《授業外学習》

・新聞，テレビ，Web等での教育に関する時事問題に関心を持ち，教師の視点で問題を捉える。
・小学校，幼稚園教育の指導に関する文献にあたり，多角的な視点をもって，実習に臨む。
・実習記録は毎日丁寧に記録する。

《テキスト》

授業時にハンドアウトを配布する。

《学習状況・理解度の確認》

・インターンシップにおいて学んだことを整理して，報告会において個々の学びを交流することで学びをさらに深化させ，次年度以降に実施される教育実習において発展させる。

《参考図書》

文部科学省（2017）『幼稚園教育要領』，小学校学習指導要領』
内閣府・文部科学省・厚生労働省（2017）『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』

《備考》

・実習においては、実習生としてのマナー・ルール等を遵守する。　学生個人の解釈でそれらを逸脱した場合は、単位取得に影響する。　・指導者は実務経験有（小学校教員・校長）　Interact experience activities

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	1-3 多様な人と協働し、地域社会に貢献する力	地域の多様な人たちと関わりをもち，幼児や児童への言葉かけや行動に着目し，効果的な指導のあり方を探究して地域に貢献する力を養うことができる。
○	1-1 豊かな人間性をもって人と関わる力	教育者としての自覚をもち，特別な配慮を要する幼児や児童の指導も含めて，効果的な指導のあり方を探究して，教育者としての資質を高めることができる。
○	1-2 使命感と情熱をもって教育・保育を実践する力	教育者としての自覚をもち，保育や授業の準備物，板書，発問，言葉かけ等に注目して，幼児や児童の学びに学級経営が密接に関係することを知り，実践に結びつけることができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	
小テスト	
レポート	40%
発表・実技	50%
授業内課題	10%
その他（ ）	
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	インターンシップガイダンス	インターンシップの心得として，意義，目的，留意事項を確認し，各種必要書類の作成を行う。	実施校について調べておく。	45分
2	指導者の視点	指導者がどのような心構えで授業を展開したり生徒指導を行ったりするのか，指導者の視点をキーワードに考える。	内容や流れを確認し，考察する	45分
3	インターンシップ実践１	幼稚園，小学校において，主として，クラス活動や授業を通して指導の具体を観察し，記録する。	遊びを中心にふれあいについて	120分
4	インターンシップ実践２	幼稚園，小学校において，主として，クラス活動や授業を通して指導の具体を観察し，記録する。	実習記録記載	45分
5	インターンシップ実践３	幼稚園，小学校において，主として，クラス活動や授業を通して指導の具体を観察し，記録する。	実習記録記載	60分
6	インターンシップ実践４	幼稚園，小学校において，主として，、授業以外の時間帯における教員の子どもへの声かけや支援の様子を注視し，記録する。	実習記録記載	60分
7	インターンシップ実践５	幼稚園，小学校において，主として，、授業以外の時間帯における教員の子どもへの声かけや支援の様子を注視し，記録する。	実習記録記載	60分
8	インターンシップ実践６	幼稚園，小学校において，主として，、授業以外の時間帯における教員の子どもへの声かけや支援の様子を注視し，記録する。	実習記録記載	60分
9	インターンシップ実践７	幼稚園，小学校において，主として，校務分掌についてその職務内容を知り，責任のある仕事の進め方などを学び，記録する。	実習記録記載	60分
10	インターンシップ実践８	幼稚園，小学校において，主として，校務分掌についてその職務内容を知り，責任のある仕事の進め方などを学び，記録する。	実習記録記載	60分
11	インターンシップ実践９	幼稚園，小学校において，主として，担任外の専科や養護教諭等の職務内容を知り，責任のある仕事の進め方を学び，記録する。	実習記録記載	60分
12	インターンシップ実践１０	幼稚園，小学校において，主として，担任外の専科や養護教諭等の職務内容を知り，責任のある仕事の進め方を学び，記録する。	実習記録記載	60分
13	インターンシップ実践１１	幼稚園、小学校において、主として、担任外の専科や養護教諭等の職務内容を知り、責任のある仕事の進め方を学び、記録する。	実習記録記載	60分
14	インターンシップ実践１２	幼稚園、小学校において、主として、担任外の専科や養護教諭等の職務内容を知り、責任のある仕事の進め方を学び、記録する。	交流を通して新たな気づきや発	60分
15	インターンシップ報告会	学んだことをスライドにまとめ、プレゼンテーションする。	交流を通して新たな気づきや発	60分

《専門教育科目》

科目名	情報活用の実践Ⅰ			科目ナンバリング	509ST33300
担当者氏名	河野　稔			担　当　形　態	オムニバス
授業方法	演習	単位・必選	2　・　選択	開講年次・開講期	2　年　・　Ⅰ期

《授業の概要》

ICTを活用した授業や活動を実践できることを目指し、各教科等での事例から、教科の特性や学習過程等を踏まえたICT活用場面を理解し、各教科におけるICT活動指導力を身につける。教科としては、国語科、算数科、理科科、社会科を扱う。
また、学校現場で使用されているビジュアル型のプログラミング言語を用いて、演習形式でプログラミングの基礎を体験し、プログラミング的思考等とプログラミング教育を行う際に必要となる基本的な操作および方法論を体験的に学ぶ。

《授業外学習》

各教科等でのICT活用では、文部科学省の『各教科等の指導におけるICTの効果的な活用に関する解説動画』のWebページにある解説動画を予復習として視聴すること。また、事例分析の作業と発表準備をグループで協力して、授業外時間に進めておくこと。
プログラミングの体験では、ビジュアル型プログラミング言語の操作方法を確認しておくこと。また、作成したプログラムを発表するための準備にも授業外時間に取り組んでおくこと。

《テキスト》

授業においてプリントを適宜配布する。 また、文部科学省『各教科等の指導におけるICTの効果的な活用に関する解説動画』の動画も適宜使用する。

《学習状況・理解度の確認》

小テストや提出物にはコメントを付して返却するとともに、口頭発表には講評を行う。オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《参考図書》

文部科学省『学習指導要領「生きる力」』 文部科学省『教育の情報化の推進』 上記以外の参考資料と参考Webページは適宜配付・紹介する。

《備考》

グループワークを行う、ICT活用双方向授業です。とくに、実践の事例分析と発表は、グループワークとプレゼンテーションを行います。 主体的かつ意欲的に授業に参加することを期待します。 英語表記：Practice of information Utilization I

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を展開する力	各教科等の指導においてICTを活用する際に求められる観点や教科等の特性に応じた活用法を説明できる。
○	2-1 子どもの個別的理解に基づき教育・保育を柔軟に展開する力	各教科等の学習過程や指導内容に応じたICTを活用した授業設計と学習指導案を作成できる。
○	3-1 教育・保育に関する知識・技能を更新し続ける力	プログラミング言語を用いてプログラムを作成でき、プログラミング教育で育成する資質・能力を説明できる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	
小テスト	
レポート	40%
発表・実技	10%
授業内課題	50%
その他（ ）	
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	オリエンテーション	学校教育におけるICTを活用した学習場面について学習形態と関連づけて理解する。	各教科等でのICT活用の調査	60分
2	国語科におけるICT活用(1)	国語科でのICTの活用において、国語科の学習過程とICT活用場面について理解し、学習場面に応じた活用をイメージする。	活用の解説動画の視聴	60分
3	国語科におけるICT活用(2)	ICTを活用した授業事例を学び、国語科でのICT活用の特性について考察する。	事例分析と発表準備	90分
4	算数科におけるICT活用(1)	算数科でのICTの活用において、算数科の学習過程とICT活用場面について理解し、学習場面に応じた活用をイメージする。	活用の解説動画の視聴	60分
5	算数科におけるICT活用(2)	ICTを活用した授業事例を学び、算数科でのICT活用の特性について考察する。	事例分析と発表準備	90分
6	理科におけるICT活用(1)	理科でのICTの活用において、理科の学習過程とICT活用場面について理解し、学習場面に応じた活用をイメージする。	プログラミングの事例調査	60分
7	理科におけるICT活用(2)	ICTを活用した授業事例を学び、理科でのICT活用の特性について考察する。	プログラミングの事例分析	90分
8	社会科におけるICT活用(1)	社会科でのICT活用において、学習過程とICT活用場面について理解し、学習場面に応じた活用をイメージする。	活用の解説動画の視聴	60分
9	社会科におけるICT活用(2)	ICTを活用した授業事例を学び、社会科でのICT活用の特性について考察する。	事例分析と発表準備	90分
10	プログラミング教育とプログラミング的思考	プログラミングがもたらす可能性、およびプログラミング教育の基本的な考え方とプログラミング的思考について理解する。	プログラミング的思考の調査	60分
11	プログラミングの体験(1)	ビジュアル型プログラミン言語（Viscuit）の基本的な操作を体験的に学ぶ。	Viscuit（ビスケット）の操作	90分
12	プログラミングの体験(2)	ビジュアル型プログラミン言語（Scratch）の基本的な操作を体験的に学ぶ。	Scratch（スクラッチ）の操作	90分
13	プログラミングの体験(3)	選択したビジュアル型プログラミン言語を用いて、簡単なプログラミングを体験的に学ぶ。	プログラムの作成	90分
14	プログラミングの体験(4)	ビジュアル型プログラミン言語で作成したプログラミングを発表し、その改善に取り組む。	プログラムの作成と発表準備	90分
15	全体のまとめとICT活用能力の育成	授業で取り組んだ各教科等でのICT活用等をまとめ、学習場面の分類に応じたICT活用の留意点について考察する。	各教科等でのICT活用の整理	60分

《専門教育科目》

科目名	情報活用の実践Ⅱ（デジタル教科書の活用含む）			科目ナンバリング	509ST33400
担当者氏名	河野　稔			担　当　形　態	オムニバス
授業方法	演習	単位・必選	2　・　選択	開講年次・開講期	2　年　・　Ⅱ期

《授業の概要》

ICTを活用した授業や活動を実践できることを目指し、各教科等での事例から、教科の特性や学習過程等を踏まえたICT活用場面を理解し、各教科におけるICT活動指導力を身につける。教科としては、生活科、音楽科、図画工作科を扱う。デジタル教科書を活用した授業デザインやデジタル教材との連携も学ぶ。
さらに、学校現場で使用された指導事例や教材等を分析し、模擬指導を実践することで、プログラミング教育に関する基礎的な知識と取り組み方を実践的に身につける。

《授業外学習》

各教科等でのICT活用では、文部科学省の『各教科等の指導におけるICTの効果的な活用に関する解説動画』のWebページにある解説動画を予復習として視聴すること。また、事例分析の作業と発表準備をグループで協力して、授業外時間に進めておくこと。
プログラミング教育の実践についても、指導事例と教材などの分析、指導案の設計と教材作成は授業中に時間をとれないため、グループで協力して授業外時間に活動を進めておくこと。

《テキスト》

授業においてプリントを適宜配布する。 また、文部科学省『各教科等の指導におけるICTの効果的な活用に関する解説動画』の動画も適宜使用する。

《学習状況・理解度の確認》

小テストや提出物にはコメントを付して返却するとともに、口頭発表には講評を行う。オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《参考図書》

文部科学省『教育の情報化の推進』 文部科学省『小学校プログラミング教育の手引き』 上記以外の参考資料と参考Webページは適宜配付・紹介する。

《備考》

グループワークを行う、ICT活用双方向授業です。とくに、プログラミング教育の模擬指導と発表は、グループワークとプレゼンテーションを行います。主体的かつ意欲的に参加することを期待します。 英語表記：Practice of information Utilization II

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を展開する力	各教科等の指導においてICTを活用する際に求められる観点や教科等の特性に応じた活用法を説明できる。
○	2-1 子どもの個別的理解に基づき教育・保育を柔軟に展開する力	各教科等の学習過程や指導内容に応じたICTを活用した授業設計と学習指導案を作成できる。
○	3-1 教育・保育に関する知識・技能を更新し続ける力	デジタル教材等との一体的な使用を含めた、デジタル教科書を効果的に活用した学習方法と留意点を説明できる。
○	3-1 教育・保育に関する知識・技能を更新し続ける力	プログラミング教育で育成する資質・能力を踏まえて、学習活動に応じたプログラミング教育の指導を設計できる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	
小テスト	
レポート	40%
発表・実技	10%
授業内課題	50%
その他（ ）	
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	オリエンテーション	情報活用の実践Ⅰでの、各教科等でのICTを活用した学習場面とプログラミン教育の基本的な考え方をふり返る。	情報活用の実践Ⅰのふり返り	45分
2	生活科におけるICT活用(1)	生活科でのICTの活用において、生活科の学習過程とICT活用場面について理解し、学習場面に応じた活用をイメージする。	活用の解説動画の視聴	60分
3	生活科におけるICT活用(2)	ICTを活用した授業事例を学び、生活科でのICT活用の特性について考察する。	事例分析と発表準備	90分
4	音楽科におけるICT活用(1)	音楽科でのICTの活用において、音楽科の学習過程とICT活用場面について理解し、学習場面に応じた活用をイメージする。	活用の解説動画の視聴	60分
5	音楽科におけるICT活用(2)	ICTを活用した授業事例を学び、音楽科でのICT活用の特性について考察する。	事例分析と発表準備	90分
6	図画工作科におけるICT活用(1)	図画工作科でのICTの活用において、図画工作科の学習過程とICT活用場面について理解し、学習場面に応じた活用をイメージする。	活用の解説動画の視聴	60分
7	図画工作科におけるICT活用(2)	ICTを活用した授業事例を学び、図画工作科でのICT活用の特性について考察する。	事例分析と発表準備	90分
8	デジタル教科書の活用(1)	指導者用デジタル教科書の特長や活用方法を理解し、デジタル教材等との連携やICT活用指導力との関連について考察する。	ﾃﾞｼﾞﾀﾙ教科書の活用事例を調査	60分
9	デジタル教科書の活用(2)	学習者用デジタル教科書の特長や活用方法を理解し、デジタル教材等との連携や情報活用能力との関連について考察する。	ﾃﾞｼﾞﾀﾙ教科書の活用事例を調査	60分
10	各教科等におけるプログラミング教育の実践(1)	プログラミング教育で育成する資質・能力と情報活用能力との関係、および各教科等での指導や評価について理解する。	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ教育の事例の調査	75分
11	各教科等におけるプログラミング教育の実践(2)	各教科におけるプログラミング教育での実践事例をまとめて発表し、相互に評価する。	事例の指導案や教材等の分析	90分
12	プログラミング教育の実践(1)	プログラミング教育の実践を分析し、指導案や教材等を参考に、プログラミング教育の模擬授業の指導案を設計する。	指導案の作成	120分
13	プログラミング教育の実践(2)	グループで設計した指導案をもとに、教材やプログラムを作成する。	教材などの模擬指導の準備	120分
14	プログラミング教育の実践(3)	グループで作成した指導案と教材等を用いて模擬指導を実施し、相互に評価して、改善策を検討する。	指導案や教材の改善	75分
15	全体のまとめとICT活用指導力	授業で取り組んだ各教科等でのICT活用とプログラミング教育をまとめ、ICT活用の指導上の留意点について考察する。	ICT活用指導力ﾁｪｯｸﾘｽﾄの確認	60分

《専門教育科目》

科目名	教職入門			科目ナンバリング	509ST40400
担当者氏名	岡田　広示			担　当　形　態	共担
授業方法	講義	単位・必選	2　・　必修	開講年次・開講期	1　年　・　Ⅰ期

《授業の概要》
教職とは何か、教員の社会的役割は何か、教員の仕事とはどのようなことなのかについてさまざまな角度からアプローチし、教職の意義についての理解を深める。実際の教員の「仕事」や「立場」を、授業、校務分掌、保護者や地域と連携の観点から捉え、チームとしての学校の在り方を考察するとともに、法的な位置づけを理解する。また、教員として求められる資質や能力はどのようなものかについて理解し、自らの課題を明らかにする。

《授業外学習》
配布された資料を読んでレポートを作成する。

《テキスト》
『教職論（ミネルヴァ教職専門シリーズ3)』 広岡義之・津田徹（編著）、ミネルヴァ書房 『法規で学ぶ教育制度（よくわかる！教職エクササイズ７）』古田薫・山下晃一（編著）、ミネルヴァ書房 その他必要に応じて資料を配布します。

《学習状況・理解度の確認》
毎回、授業終了時に提出する学習記録カードをコメントを付して返却する。また、質問や重要なコメントに関しては授業内で取り上げて解説する。

《参考図書》
授業中に指示します。

《備考》
Introduction to teaching profession

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	教員に関わる制度について理解している。
◎	2-3 教育・保育に関わる諸課題について論理的に考える力	学校教育や保育に関する今日的な課題について理解している。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	60%
小テスト	10%
レポート	20%
発表・実技	5%
授業内課題	5%
その他（ ）	0%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	教職とは	・本講義の進め方について理解し、主体的に学習に取り組む意欲を持ち、教員を目指すものとしての姿勢について考察する。	教員採用試験について	60分
2	さまざまな教職観とその歴史的変遷	・教職観の歴史的変遷をたどりながら、教職とは何かを考察し、自分自身の教職観、教員像を獲得する。	良い教員とは	60分
3	教員に求められる資質・能力	・教員に求められる資質・能力を、さまざまな答申やデータから読み解き、自分自身の課題を明らかにする。	プリントを読んで感想を書く	60分
4	教員養成と教員免許制度	・教員免許制度の法的側面を学び、教員養成の仕組みを理解する。　・教員採用試験の概要を知り、採用試験までの展望を持つ。	採用試験合格に向けた計画	45分
5	教員の職務①:教員の種類と職務,校務分掌,チーム学校	・学校の教育活動を支える教員組織と役割分担、連携協力、チーム学校の意義を理解する。	校務分掌について調べる	45分
6	教員の職務②:学習指導、生徒指導、その他	・学習指導、生徒指導、進路指導、教育相談、その他の教員の職務について理解する。	教員の一日をレポートする	45分
7	教員の職務③:保護者・地域との連携協力	・保護者や地域住民との連携協力の意義を理解し、どのようなあり方が望ましいか考察する。	事例を調べる	45分
8	教員の職務④:アカウンタビリティと学校運営	・学校運営のプロセスを理解する。　・学校の果たすべきアカウンタビリティとは何かを理解する。	学校評価の結果を分析する	45分
9	教員の人事管理①:服務	・地方公務員法および教育公務員特例法等から教員の服務と身分ついて理解する。	プリントを読んで感想を書く	60分
10	教員の人事管理②:任免と服務の監督、懲戒	・教員の任免に係る制度、教員の身分保障と分限、懲戒等について理解する。	プリントを読んで感想を書く	60分
11	教員の人事管理③:教員評価	・教員評価の意義と課題について理解する。	プリントを読んで感想を書く	60分
12	教員の資質向上と研修	・教員の研修制度について理解し、資質向上のためにどのような取組みを行う必要があるかを考察する。	教員としてのキャリア計画	45分
13	教員の労働環境	・教員の勤務実態、労働条件について、事例にそって理解する。	プリントを読んで感想を書く	60分
14	教師という仕事―やりがいと悩み―	・教員としてのやりがいや悩みについて、さまざまな文献を通して教員の生の声を聞き、教職に対する自分自身の考えを整理する。	事例を調べる	45分
15	目指す教員像と課題	・学習を振り返って、教職とは何かを考察する。　・どのような教員になりたいかを、多様な視点から述べ、自らの課題を明らかにする。	どのような教員をめざすか	60分

《専門教育科目》

科目名	生徒指導・進路・キャリア教育の理論と方法			科目ナンバリング	509ST43600
担当者氏名	新井　肇			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2　・　選択	開講年次・開講期	2　年　・　Ⅱ期

《授業の概要》

生徒指導・進路指導の諸課題を総合的に理解するとともに、実践において求められる理論と技法の習得をめざす。いじめ・不登校・暴力行為・非行などの従来型の問題行動に加え、児童虐待・ネット犯罪・自殺等の深刻な児童生徒の問題行動の情勢を捉え、その原因・背景を理解し、生徒指導実践において必要とされる方法（ガイダンス・カウンセリングなど）に関する理論と技法について学習する。また、進路指導・キャリア教育の目的・内容・方法についての基礎的理解を図るとともに、青少年の職業観・勤労観の形成、進路選択・職業選択等に関する課題をとりあげ、対応の具体的方向性について学習する。

《テキスト》

文部科学省（編）『生徒指導提要』（2022）https://www.mext.go.jp/content/20230220-mxt_jidou01-000024699-201-1.pdfよりダウンロード　講義時に適宜プリント資料を配付する

《参考図書》

日本生徒指導学会(編)『現代生徒指導論』（2015）学事出版

《授業外学習》

生徒指導の基本書である『生徒指導提要』を、授業前学習として自己の小・中・高校での体験と重ねながら読むとともに、授業後の振り返りとして、学習内容と関連付けながら読み込むことで、生徒指導の理論や方法の基礎的な力量の定着を図る。また、教育に関する時事的な問題に関心を持ち、新聞、雑誌、テレビ、インターネット等の情報を分析するとともに、文部科学省通知や国立教育政策研究所資料、各種審議会答申等の検討を通して、今日求められている生徒指導及び進路指導・キャリア教育の実践内容について主体的に考察する態度を養うことをめざす。

《学習状況・理解度の確認》

授業内のグループワークや事例検討等における発言・発表や、個別課題に関する小レポートの内容等から理解度を測る。加えて、そこからみえてきた課題について全体協議を行い、理解度の深まりを捉える。

《備考》

課題に応じて、グループ協議や事例研究などの演習にも取り組むので、毎時間授業に出席し、積極的に学習に取り組んでほしい。また、授業で取り上げるテーマに関して、自分の小・中・高等学校時代の経験を振り返るとともに、教師になった未来の自分の視点から考えることを心がけてほしい。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
	学校教育における生徒指導・進路指導・キャリア教育の位置づけの理解	生徒指導・進路指導・キャリア教育の概念を明確に理解し、学校の全教育活動に通底する基本的な機能であることを理解する
	児童生徒理解に基づく生徒指導実践の理論と方法	児童生徒の問題行動や内的葛藤に対する理解を深め、生徒指導の多様な方法を身につけ、方向性を持って様々な問題行動への対応である実践的指導力の基盤の形成を図る。
	進路指導・キャリア教育の理論と方法	進路に関する課題について理解し，進路指導。キャリア教育の基礎的な知識と指導方法の習得をめざす。
	学校内外の連携の基づく組織的生徒指導の進め方	学校における危機管理能力や学校内外の連携を進めるコーディネイト能力につながる基礎的な力量を形成することを目標とする。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	0%
小テスト	0%
レポート	70%
発表・実技	0%
授業内課題	30%
その他（ ）	0%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	生徒指導と進路指導の教育的意義と目標	生徒指導と進路指導の意義・目的・内容について概観し、生徒指導と進路指導の教育的意義と目標等について学ぶ。	自己の生徒指導経験を振り返る	45分
2	生徒指導・進路指導・キャリア教育の定義・歴史・理論	日本の学校における生徒指導・進路指導の歴史を振り返り、生徒指導・進路指導・キャリア教育や定義、基盤となる理論について検討する。	『生徒指導提要』の1章を読	60分
3	教育課程の諸領域と生徒指導・進路指導の位置づけ	生徒指導・進路指導が学校の全教育活動に通底する基本的機能であることを理解し、各教科、特別活動、道徳等との関係性について理解する。	『生徒指導提要』の2章を読	60分
4	生徒指導における児童生徒理解と理論と実際	生徒指導における児童生徒理解の意味と理解のための理論、及び実際の教育活動において求められる技法ついて学ぶ。	『生徒指導提要』の3章を読	60分
5	非行問題の理解と対応	暴力行為、インターネットや性に関する課題など、広く非行問題を理解するとともに、基本的生活習慣の確立、安全教育の重要性を理解する。	新聞等から最近の少年犯罪を検	60分
6	不登校の理解と対応	不登校・ひきこもり・高校中退について心理学・社会学の理論による検討を行い、非社会的問題行動への対応について学ぶ。	『生徒指導提要』の6章を読	60分
7	いじめ問題の理解と対応	いじめを心理学、社会学の視点から理解し、「いじめ防止対策推進法」制定以後の対応の方向性と課題について学ぶ。	母校のいじめ防止基本方針を検	75分
8	児童生徒の自殺予防対策の理解と方法	自殺の現状と背景、リスクの高い児童生徒への関わり、学校危機への対応について学ぶとともに、自殺予防教育の進め方を理解する。	自殺対策基本法を読む。	60分
9	生徒指導に関する主要法令の理解と人権教育	校則、懲戒、体罰等に関する主要法令について理解し、児童生徒の人権保障の視点から生徒指導の方向性について検討する。	『生徒指導提要』の5章を読	60分
10	生徒指導の校内体制の組織化と関係機関との連携・協働	組織的生徒指導の重要性と、児童虐待や家庭の貧困等、学校だけでは解決困難な問題に関する専門機関との連携の必要性を理解する。	『生徒指導提要』の4・8章を	90分
11	進路指導とキャリア教育の意義と内容	職業観・勤労観の育成、自己理解の促進、生き方あり方など、多様な課題をもつキャリア教育の意義について学ぶ。	自分が受けた進路指導を振り返	45分
12	進路指導・キャリア教育の理論的背景	キャリア教育に関する国内外の諸理論を概観する。特に、最近の理論的動向（シャイン、クランボルツ、等）について学ぶ。	関心のあるキャリア理論を調べ	75分
13	進路指導における児童生徒理解の方法	キャリアカウンセリングの理論と実際について、ロールプレイなどをまじえて体験的に学ぶ。	『生徒指導提要』の5章3節を	45分
14	キャリア教育の先進的実践事例の検討	日本のキャリア教育の代表的な実践事例を紹介し、今後の取り組みの方向性と課題について学ぶ。	先進的な実践事例について調べ	90分
15	学校における生徒指導・進路指導の今後の課題	生徒指導、及び進路指導の課題について、各自の所見を発表し、全体で討議するとともに、講義全体の振り返りを行う。	自己の経験を事例としてまとめ	90分